

高知県埋蔵文化財センター年報

第26号

2016年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

高知県埋蔵文化財センター年報

第26号

2016年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは大規模開発に対応すべく円滑な発掘調査事業の推進と共に高知県立埋蔵文化財センターの施設並びに出土文化財の管理及び普及教育事業を行うべく指定管理者として取り組んでいます。

平成28年度の受託事業は、発掘調査が3件で整理作業が4件でした。発掘調査事業については道路開発に伴う緊急発掘調査が新たな事業として始まりました。国事業では南国安芸道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査と整理業務、県事業では都市計画道路高知南国線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査と整理業務、山田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査が実施されました。

次に指定管理事業では出前考古学教室、公開講座等事業、企画展等事業を三本柱とし、出前考古学教室は今年度も県内の小学校を中心に97校に出向き、3,375人の児童を対象に実施しました。また、当埋蔵文化財センターがある南国市の地域の方々を対象に勾玉づくりや銅鏡づくり、火起こしなどを埋蔵文化財センターで実施する「まいぶんセンターまつり」を昨年度に引き続き開催し、当日は親子連れなど174名の参加がありました。

企画展等の展示会では分かりやすい展示に努めるとともに、企画展示にあわせたフィールドワークも併せて実施しました。このような取り組みをした結果、平成28年度の当埋蔵文化財センター来館者は4,651人と過去最高の来館者数となりました。

また、年間行事カレンダーの作成やホームページの更新を随時行うなど利用者の便を図ると共に高知県文化財団として「ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ」への参加など当センターに親しんで頂けるよう努めました。

今後、発掘調査事業の縮小が予測されますが、これまでの成果をより多くの県民の方に伝える普及教育事業をさらに推進する計画です。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に土佐のいにしえを紐解く場所にしていきたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年12月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所 長 松田 直則

例言

- 1.本書は公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成 28(2016)年度事業の概要をまとめたものである。
- 2.「Ⅲの2の(1)～(8)」及び「Ⅳ」は担当が中心となって執筆し、吉成が取りまとめ編集した。それ以外は吉成が執筆、編集した。

本文目次

I 公益財団法人高知県文化財団	1	III 年間事業の概要	7
1. 公益財団法人高知県文化財団の概要	1	1. 発掘調査事業	7
(1) 設立趣旨	1	(1) 受託事業	9
(2) 目的等	1	(2) 発掘調査報告書(整理作業)	9
(3) 設立年月日	1	2. 指定管理事業	11
(4) 名称変更年月日	1	(1) 公開展示	12
(5) 事務局所在地	1	(2) 公開講座等	14
2. 公益財団法人高知県文化財団の組織	2	(3) 情報公開等	19
(1) 財団組織	2	(4) 出前考古学教室	22
(2) 財団役員	2	(5) 研修事業	27
II 埋蔵文化財センター	3	(6) 講師等職員の派遣	28
1. 埋蔵文化財センターの概要	3	(7) 遺物の再整理事業等	28
(1) 設立趣旨	3	(8) その他	28
(2) 事業内容	3	IV 各遺跡の発掘調査概要	31
(3) 設立年月日	3	1. 伏原遺跡(16-1KF)	31
(4) 埋蔵文化財センター所在地	3	2. 高田遺跡(16-2KT)	33
2. 埋蔵文化財センターの組織	3	3. 若宮ノ東遺跡(16-3NW)	35
(1) 埋蔵文化財センターの組織図	3	V 条例・規則等	37
3. 埋蔵文化財センターの施設	5	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例	37
4. 利用方法等について	6	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則	41
(1) センターの利用	6	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指 定	42
(2) 利用時間	6		
(3) 休館日	6		
(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先	6		

表目次

表 1 高知県文化財団評議員	2	表 9 平成28年度公開講座1	15
表 2 高知県文化財団役員	2	表10 平成28年度考古学講座(考古学からわかる歴史教 室)	16
表 3 平成28年度高知県埋蔵文化財センター職員一 覧	4	表11 平成28年度遺跡解説会(発掘調査報告会)	16
表 4 発掘調査推移表	7	表12 平成28年度公開講座2(親子考古学教室)	17
表 5 平成28年度受託発掘調査事業(発掘調査遺跡)一 覧	8	表13 平成28年度物品・遺物(県有物)貸出一覧	20
表 6 平成28年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧 ..	9	表14 平成28年度施設見学者一覧	21
表 7 入館者推移表と平成28年度の入館者	11	表15 平成10～28年度出前考古学教室実績一覧	22
表 8 公開講座参加者数	14	表16 平成28年度出前考古学教室前期実績一覧(授業 実施数)1	24

表17 平成28年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)2	25	表20 平成28年度埋蔵文化財担当者研修	28
表18 平成28年度出前考古学教室後期実績一覧(授業実施数)	25	表21 平成28年度職員自主企画研修	28
表19 平成28年度職員専門研修	28	表22 平成28年度会議等参加者一覧	29
		表23 平成28年度講師派遣・調査指導等依頼一覧	29

図目次

図1 高知県文化財団組織図	2	図6 平成28年度受託事業発掘調査位置図	8
図2 高知県埋蔵文化財センター組織図	3	図7 平成28年度受託事業整理作業位置図	10
図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図 (S=1/800)	5	図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合	16
図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800)	6	図9 伏原遺跡位置図	31
図5 受託発掘調査事業推移グラフ	7	図10 高田遺跡位置図	33
		図11 若宮ノ東遺跡位置図	35

写真目次

写真1 年間行事カレンダー	11	写真14 勾玉づくり	26
写真2 企画展ポスター	12	写真15 職員専門研修	28
写真3 巡回展ポスター	12	写真16 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ 1	30
写真4 特別展ポスター	13	写真17 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ 2	30
写真5 移動展ポスター	13	写真18 遺構完掘状態	31
写真6 親子考古学教室ポスター	17	写真19 ST-6須恵器(壺・杯)出土状態	32
写真7 まいぶんセンターまつり(編布づくり)	18	写真20 VI区遺構完掘状態	33
写真8 まいぶんセンターまつり(銅鏡づくり)	18	写真21 V区竪穴建物跡完掘状態	34
写真9 まいぶんセンターまつり(着ぐるみ)	18	写真22 遺構完掘状態	35
写真10 ホームページ	19	写真23 総柱建物跡完掘状態	36
写真11 考古学授業	23		
写真12 展示解説	23		
写真13 火起こし	23		

I 公益財団法人高知県文化財団

1. 公益財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大等を背景に、生活のゆとりを楽しみ、人間らしい生き方を求める、いわゆる生活の質的向上に対する文化的ニーズが急速に高まりつつあり、県民の意識、行動の中に、広く芸術文化に親しみ、歴史と伝統、個性ある文化を再評価すると共に、これらの活動に積極的に参画することに生活の意義を見出し、人間としての充実感を高める、という方向が現われてきている。

このような時代趨勢の中で、県では、平成3年春に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターが発足し、その数年後には美術館が開館する等、県民文化の振興のための施設整備がなされてきた。これらの施設の運営は勿論のこと、県下の芸術文化に係る諸事業が、多様化する県民の文化的ニーズを的確に捉え、県民の期待に応えるかたちでなされることによってこそ、県民の芸術文化への意識が一層高まり、これからの個性豊かな、新しい県民文化が育まれるものである。

このため、県民の総意を汲み、一致協力して、これからの県民文化の振興を図って行くことのできる体制づくりが必要であるという認識のもと、ここに高知県と関係諸団体によって、財団法人高知県文化財団を設立し、もって本県の新しい時代の総合的、体系的な芸術文化活動の展開を担う中核的推進母体として役割機能を果たすことにより、広く県民意識を高揚し、県民福祉と県勢の発展に寄与しようとするものである。

(2) 目的等

この法人は、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化振興事業
- ② 文化財等の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ③ 委託等を受けた芸術文化施設の管理運営
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 名称変更年月日

平成24年4月1日財団法人高知県文化財団を名称変更し、移行したことにより設立

(5) 事務局所在地

高知県高知市高須353番地2

2. 公益在団法人高知県文化財団の組織

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 役員

評議員7名 理事長1名 理事11名 監事2名

② 事務局

総務部長－総務課長－事務職員

③ 組織図

(2) 財団役員

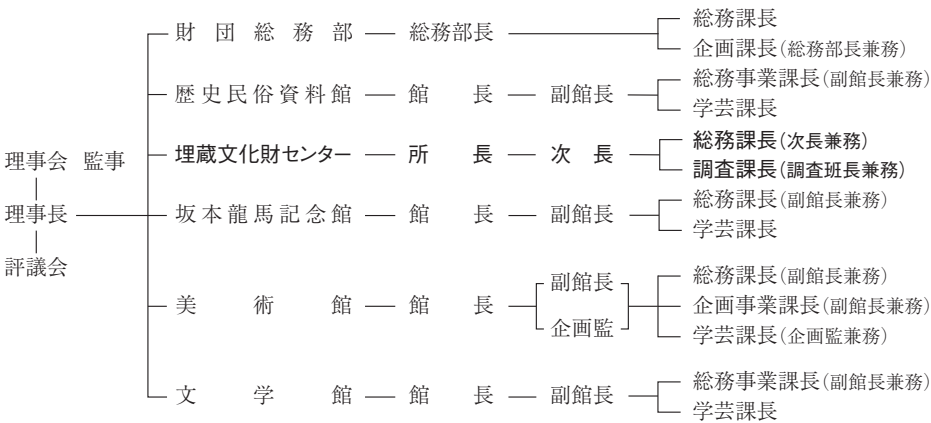


図1 高知県文化財団組織図

表1 高知県文化財団評議員

役員名	氏名	所属役職名	備考
評議員	北村 強	高知県教育委員会事務局教育次長	平成28年6月8日就任
〃	三宮 昌子	(株)高知銀行取締役	平成28年6月8日就任
〃	高橋 慎一	高知県文化生活部副部長	平成28年6月8日就任
〃	武内 孝幸	高知県町村会事務局長	平成28年6月8日就任
〃	又川 晃世	(株)高知新聞社学芸部長	平成28年6月8日就任
〃	山元 文明	(株)四国銀行代表取締役頭取	平成28年6月8日就任
〃	山本 正篤	高知県市長会事務局長	平成28年6月8日就任

平成29年3月24日現在

表2 高知県文化財団役員

役員名	氏名	所属役職名	備考
理事長	浜田 正博		平成28年6月8日就任
理事	岩崎 憲郎	高知県町村会長	平成28年6月8日就任
〃	岡崎 順子	高知県文化生活部長	平成28年6月8日就任
〃	岡崎 誠也	高知県市長会長	平成28年6月8日就任
〃	高松 清之	高知県立坂本龍馬記念館長	平成28年4月1日就任
〃	野村 直史	(株)四国銀行取締役会長	平成28年6月8日就任
〃	藤田 直義	高知県立美術館長	平成28年6月8日就任
〃	古谷 純代	高知商工会議所副会頭	平成28年6月8日就任
〃	南 裕子	高知県立大学学長	平成28年6月8日就任
〃	宮田 速雄	(株)高知新聞社代表取締役社長	平成28年6月8日就任
〃	森下 勝彦	(株)高知銀行代表取締役頭取	平成28年6月8日就任
〃	山本 眞壽	染織家	平成28年6月8日就任
監事	伊東 瑞文	(株)四国銀行法人サポート部長	平成28年6月8日就任
〃	廣光 良昭	税理士	平成28年6月8日就任

平成29年3月24日現在

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センターの組織図

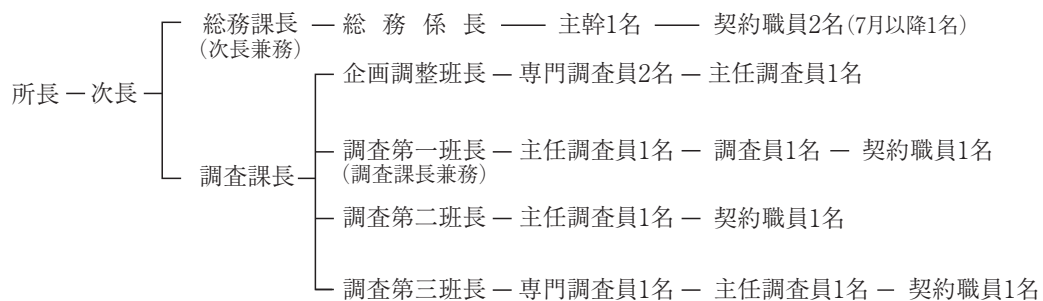


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表3 平成28年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		松 田 直 則	県教育委員会文化財課副参事	
次長(兼総務課長)		東 勝 彦	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長(兼次長)		〃	
	総務係長		(公財)高知県文化財団	
	主 幹		県教育委員会文化財課主幹	
	契約職員		(公財)高知県文化財団(～6月)	
	〃		(公財)高知県文化財団	
調査課	調査課長 (兼第一班長)		吉 成 承 三	〃
	企画調整班	企画調整班長	池 澤 俊 幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	茂 松 清 志	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	藤 野 明 弘	〃
		主任調査員	久 家 隆 芳	(公財)高知県文化財団
	調査第一班	調査第一班長 (兼調査課長)	吉 成 承 三	〃
		主任調査員	下 村 裕	県教育委員会文化財課主幹
		調査員	矢 野 雅 子	(公財)高知県文化財団
		契約職員	笹 野 女 怜	〃
	調査第二班	調査第二班長	坂 本 憲 昭	〃
		主任調査員	徳 平 涼 子	〃
		契約職員	廣 内 美登利	〃
	調査第三班	調査第三班長	坂 本 裕 一	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	江 間 盛 男	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		主任調査員	筒 井 三 葉	(公財)高知県文化財団
		契約職員	奥 宮 千恵子	〃

3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地：高知県南国市篠原1437-1

敷地面積：4,203㎡

建物構造：本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫：重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積：2,073.93㎡

(本館:615.58㎡ 北館:259.20㎡ 南館:574.11㎡ 収蔵庫:619.40㎡ プロパン庫:5.64㎡)

延床面積：4,136.16㎡

(本館:1,038.68㎡ 北館:518.40㎡ 南館:1,045.92㎡ 収蔵庫:1,527.52㎡ プロパン庫:5.64㎡)

事業費：650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

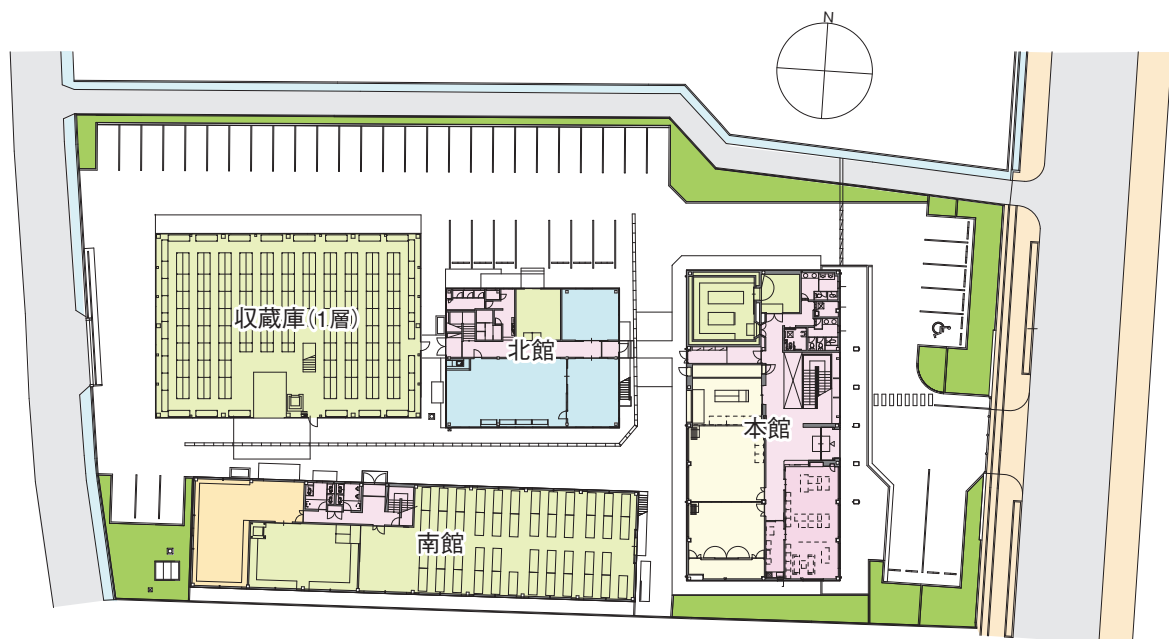


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

4. 利用方法について

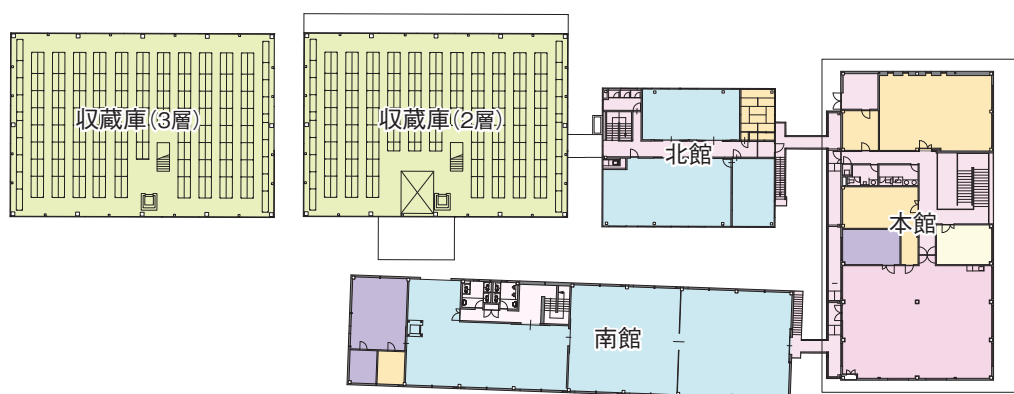


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

(3) 休館日

土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

(四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展と公開講座等の開催日は開館)

(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所.....〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel.....代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax.....代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email.....maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL.....<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

※平成29年7月1日よりURL：<https://www.kochi-maibun.jp>

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

平成 28 年度に受託した件数は 6 件で、国土交通省(県教育委員会からの再委託)及び高知県からの委託を受け、南国安芸道路、国道 195 号線、都市計画道路高知南国線建設に伴う発掘調査及び整理作業を行った。受託契約事業費は 214,291,440 円であった。発掘調査件数は 3 件で受託費は昨年度より 18,598,700 円多く、対前年度比は 9 % の増加である。経費の内訳は、国関係が 131,738,400 円(61%)、県関係が 82,553,040 円(39%)で、国土交通省関係の事業である高田遺跡(5,700㎡)、県事業である伏原遺跡(767㎡)、若宮ノ東遺跡(2,180㎡)の発掘調査面積に比例する。平成 27 年度は発掘調査が 3 件であり、28 年度は県事業である都市計画道路高知南国線建設に伴う発掘調査(若宮ノ東遺跡)が本格的に始まったことから発掘調査事業が僅かな増加となった。

平成 28 年度の発掘調査は、国事業では南国安芸道路の香南市野市町下井地区(高田遺跡)の発掘調査と、県事業の、国道 195 号線改良工事に伴う伏原遺跡(香美市)の発掘調査、更に都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡(南国市)の発掘調査が行われた。また、整理業務は、国事業である南国安芸道路の東野土居遺跡Ⅳ、宇賀遺跡、高田遺跡の報告書公刊に向けた整理作業を中心に実施した。国事業の南国安芸道路では、平成 29 年度まで東野土居遺跡の報告書公刊に向けた整理作業を実施し、平成 27 年度から香南のいち IC から高知空港 IC 間の 3.5km について試掘・確認調査の結果を得て香南市下井地区の本調査が実施されている。

表 4 発掘調査推移表

年 度	件数	受託面積
平成 3 年度	16 件	25,910 ㎡
平成 4 年度	11 件	14,663 ㎡
平成 5 年度	16 件	17,010 ㎡
平成 6 年度	10 件	28,233 ㎡
平成 7 年度	14 件	28,856 ㎡
平成 8 年度	20 件	90,546 ㎡
平成 9 年度	14 件	93,675 ㎡
平成 10 年度	20 件	111,902 ㎡
平成 11 年度	23 件	41,320 ㎡
平成 12 年度	6 件	27,314 ㎡
平成 13 年度	31 件	21,853 ㎡
平成 14 年度	28 件	10,488 ㎡
平成 15 年度	17 件	6,052 ㎡
平成 16 年度	16 件	34,285 ㎡
平成 17 年度	23 件	58,084 ㎡
平成 18 年度	9 件	38,119 ㎡
平成 19 年度	11 件	41,662 ㎡
平成 20 年度	11 件	53,792 ㎡
平成 21 年度	11 件	34,500 ㎡
平成 22 年度	5 件	29,831 ㎡
平成 23 年度	6 件	42,508 ㎡
平成 24 年度	3 件	34,498 ㎡
平成 25 年度	4 件	4,554 ㎡
平成 26 年度	0 件	0 ㎡
平成 27 年度	3 件	6,950 ㎡
平成 28 年度	3 件	8,647 ㎡
合 計	331 件	905,252 ㎡

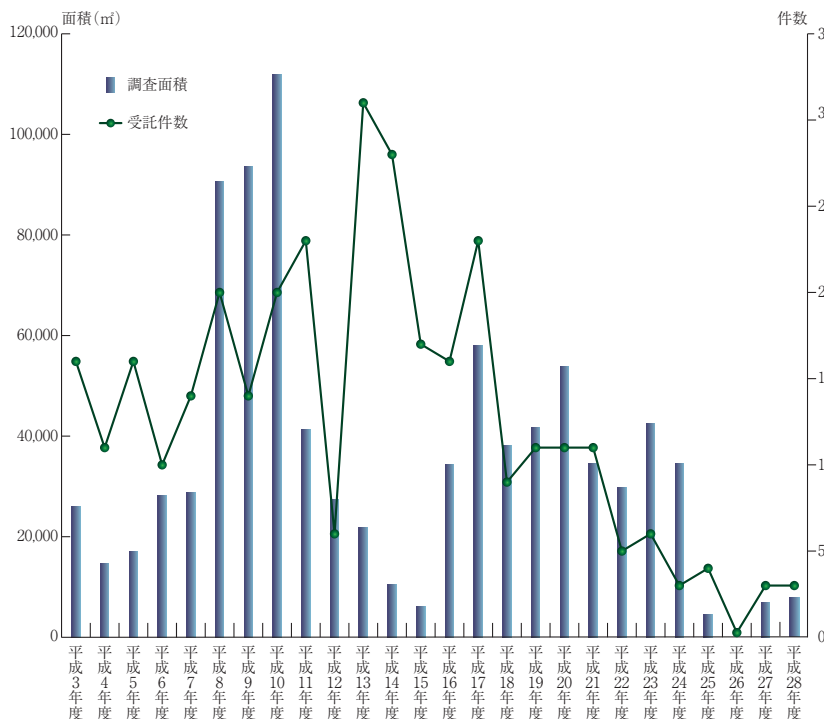


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

1. 発掘調査事業

埋蔵文化財センターの体制(図2, 表3)は, 正職員 14 名(嘱託職員と契約職員を含めると21名)であった。内訳は考古専門職員が 8 名(県派遣2名, 財団職員5名, 嘱託職員1名), 県派遣の事務職員が 2 名, 派遣教員が 5 名, 財団事務職員(嘱託)1 名, 財団契約職員(事務補助)が 5 名(7月から4名)である。組織構成は所長, 次長の下に総務課と調査課を置き, 総務課は総務課長(次長兼務)1 名, 総務係長 1 名, 主幹 1 名, 契約職員 2 名(7月から1名), 調査課は調査課長が第一班長と兼務しており, 発掘調査事業を行う調査第一班から調査第三班を配置した。調査課の人員内訳は調査課長兼第一班長 1 名, 企画調整班長 1 名, 調査班長 2 名, 調査員 8 名(専門調査員3名, 主任調査員4名, 調査員1名), 契約職員 3 名であり, この内実質的に発掘調査及び整理作業を担当するのは考古専門職員 5 名, 派遣教員 2 名である。

表5 平成28年度受託発掘調査事業(発掘調査遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	事業者	原因	委託者
1	伏原遺跡	16-1KF	香美市土佐山田町楠目	弥生・古墳	集落跡	767 m ²	H28.4.18 ～ H28.6.27	高知県	道路	高知県
2	高田遺跡	16-2KT	香南市野市町下井	弥生 ～ 古代	〃	5,700 m ²	H28.4.27 ～ H29.2.28	国交省	〃	県教委
3	若宮ノ東遺跡	16-3NW	南国市篠原	弥生 ～ 近世	屋敷跡	2,180 m ²	H28.8.15 ～ H29.2.17	高知県	〃	高知県
合 計						8,647 m ²				

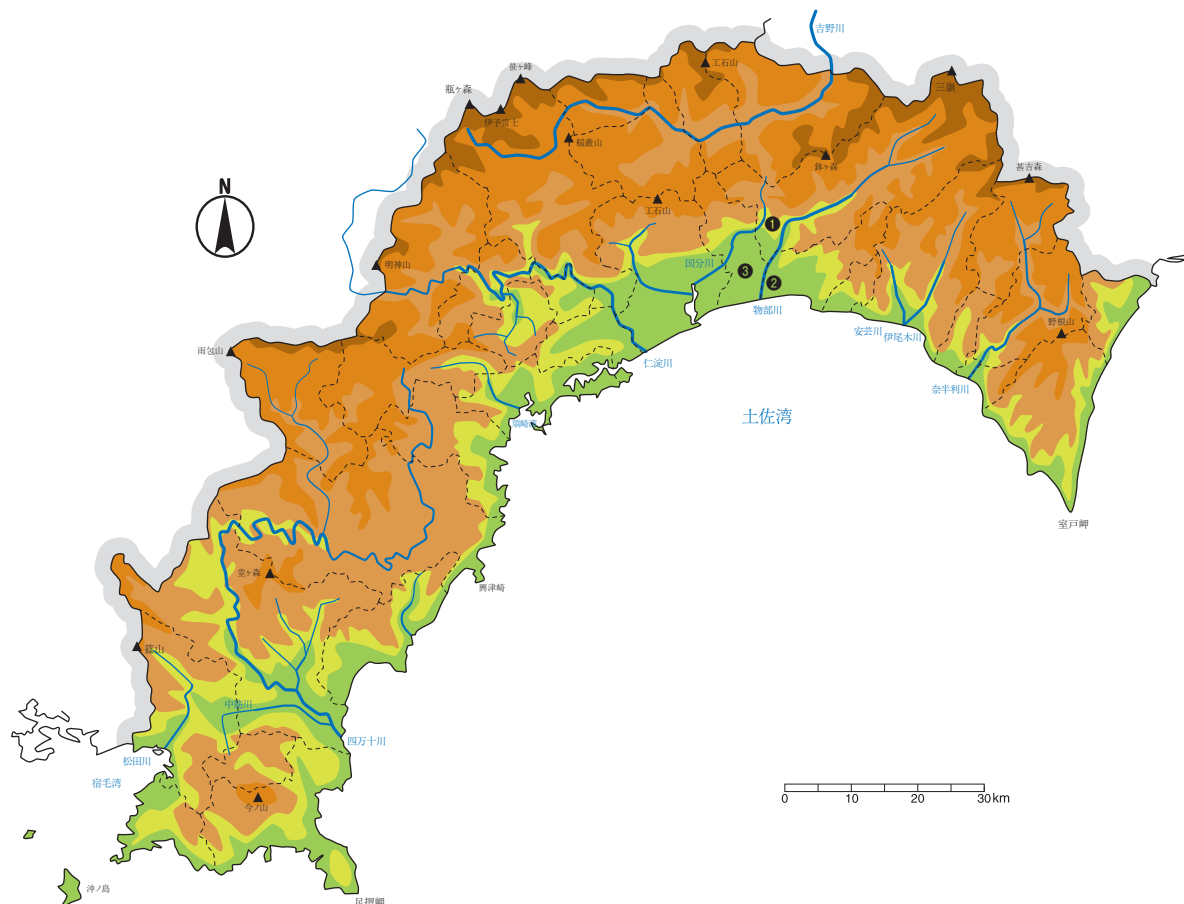


図6 平成28年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

平成 28 年度の調査課の業務分担は、企画調整班が物品・遺物(県有物)等の貸出やホームページと Web 公開データベースの管理などの情報公開、企画展等事業、公開講座等事業、出前考古学教室など指定管理に関わる普及教育業務、調査第一班が国土交通省の南国安芸道路整理事業、調査第二班が県道事業(都市計画道路高知山田線・都市計画道路高知南国線)、調査第三班が南国安芸道路発掘事業に関する事業であった。

(1) 受託事業

平成 28 年度の受託事業件数は 7 件で、発掘調査 3 件、整理作業 4 件であった。委託元は高知県教育委員会と高知県であり、高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託 4 件で、高知県からの受託事業には中央東土木事務所の国道 195 号線改良工事に伴う伏原遺跡の発掘調査及び、都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡発掘調査及び整理業務の計 3 件があった。

次に、各事業について具体的にみてみる。まず、高知県教育委員会から受託した国関係の事業には、南国安芸道路外として契約し、南国安芸道路では当面の工事区間である香南のいち IC から芸西西 IC 間の発掘調査が終了し、この区間の整理作業に移っている。今年度は引き続き東野土居遺跡を中心に整理作業を実施し、報告書刊行を目指した整理業務を実施した。平成 29 年度には『東野土居遺跡Ⅳ』の報告書を刊行予定である。また、昨年度から香南市野市町下井地区の発掘調査が本格的に始まり、宇賀遺跡・高田遺跡の整理業務も併せて実施した。平成 28 年度も下井地区の高田遺跡について発掘調査が実施され、今後は路線内の試掘調査の結果を得てこの区間の発掘調査が継続的に行われる予定である。

県関係では、新たに都市計画道路高知山田線建設に伴う伏原遺跡、及び高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡発掘調査が行われた。高知南国線については平成 29 年度も継続して調査を実施する予定である。

(2) 発掘調査報告書(整理作業)

平成 28 年度は報告書の刊行は無かった。国関係では南国安芸道路の『東野土居遺跡Ⅳ』の報告書公刊に向けた整理作業を中心に、平成 27 年度に発掘調査を実施した宇賀遺跡・高田遺跡の整理作業を実施した。東野土居遺跡は高知県香南市野市町東野・土居に所在し、香宗川下流域の平野に立地する。今回の『東野土居遺跡Ⅳ』では、弥生時代後期から古墳時代前期・後期の集落と奈良時代から平安時代にかけての建物群など各調査区の成果と、今まで刊行したⅠ～Ⅲの調査成果をふまえ考察し、総括的にまとめている。宇賀遺跡・高田遺跡は香南市野市町下井に所在し、物部川下流域に立地する。

表 6 平成 28 年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託者
1	宇賀遺跡 高田遺跡	15 - 2KU 15 - 3KT	香南市野市町下井	弥生・ 古代	集落跡	H28.4.1 ～ H29.3.31	国交省	道路	県教委
2	東野土居遺跡	10 - 1KH 11 - 1KH	香南市野市町東野・土居	弥生 ～ 近世	〃	〃	〃	〃	〃
3	若宮ノ東遺跡	16 - 3NW	南国市篠原	弥生・ 古墳	〃	H29.2.1 ～ H29.3.31	高知県	〃	高知県中央東土木

1. 発掘調査事業

平成 27 年度に発掘調査が実施され、高田遺跡では弥生時代後期の竪穴建物跡、奈良～平安時代にかけての掘立柱建物跡、土坑などが検出されており、今年度は出土遺物の整理業務を実施した。古代では 8 世紀後半から 10 世紀代にかけての土師器・須恵器の他に、黒色土器や緑釉陶器なども出土している。緑釉陶器は京都近郊産の他に東海産のものも含まれており、灰釉陶器は東海産のものがみられる。また、貿易陶磁器では越州窯系青磁が出土しており、本県では田村遺跡群に次いで 2 例目である。これらの出土遺物からみて官衙に関連する遺跡の性格がうかがえ、今後継続して行われる発掘調査で遺跡の掘がり、周辺の古代官衙遺跡との関連性がみえてくるものと思われる。

県事業では、若宮ノ東遺跡の出土遺物の洗浄・註記作業を中心に実施した。若宮ノ東遺跡は南国市篠原に所在し、長岡台地から平野部に続く変換地点に位置する。当該年度の発掘調査では弥生時代末から古墳時代にかけての竪穴建物跡、古代の大型柱穴で構成される総柱掘立柱建物跡などが検出されており、複合的な遺跡である事が明らかとなった。出土遺物はコンテナケースにして 220 箱あり、弥生土器、古代では土師器・須恵器など土器類が中心である。若宮ノ東遺跡については高知県が計画している都市計画道路高知南国線建設に伴い平成 28 年度から発掘調査が開始された遺跡であり、今後、発掘調査に並行して基礎整理を中心とした整理業務も継続的に実施していく予定である。

今年度は報告書の公刊はなかったが、新規の継続的な発掘調査が始まったことから次年度以降に計画的に報告書を公刊していく予定である。

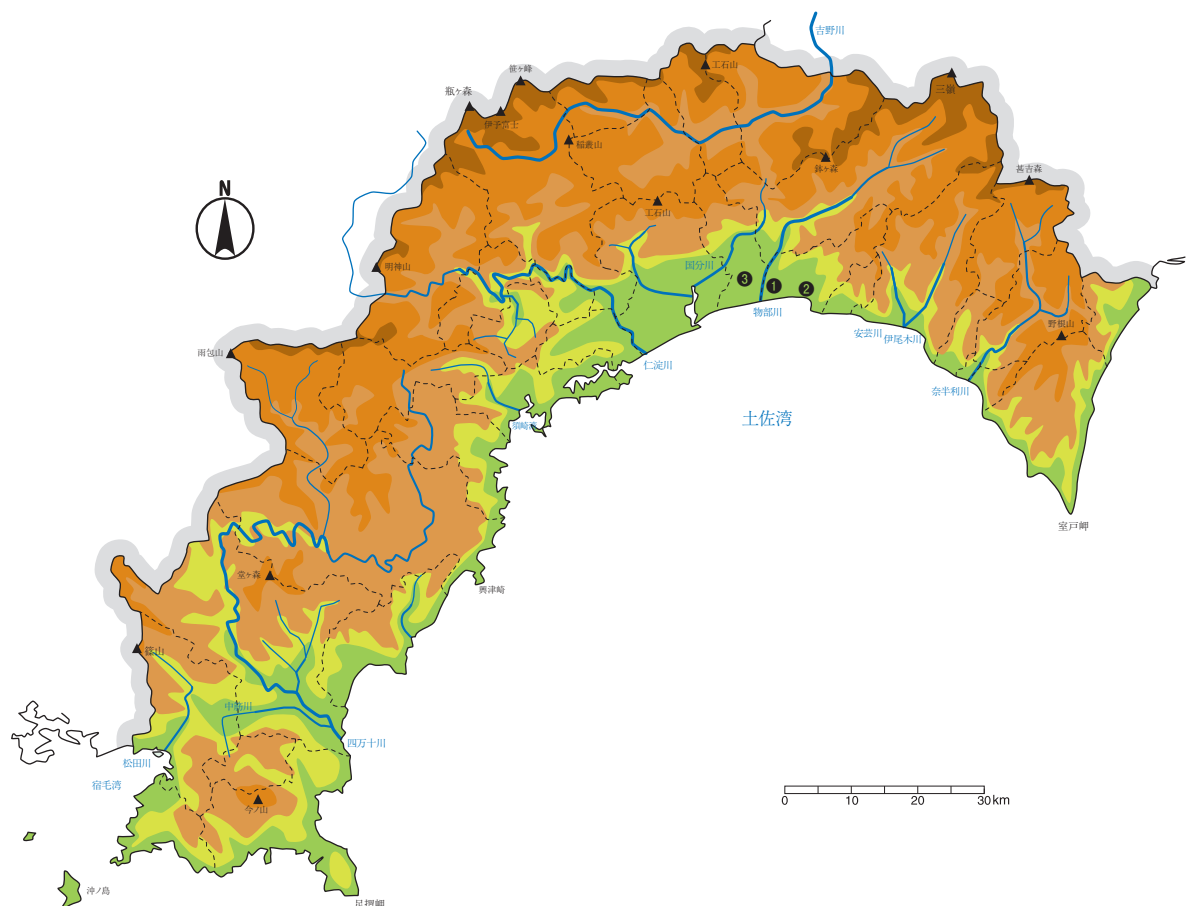


図7 平成28年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業)一覧表の番号と一致)

2. 指定管理事業

高知県教育委員会が県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務に関して導入した現在の指定管理者の指定期間は平成25年4月1日から平成30年3月31日までの5年間であり、平成28年度はその4年目に該当する。本年度の主な普及教育事業としては年間4本の公開展示（1本は地域展）、公開講座80回（展示会に伴うものを含む）、出前考古学教室97校（101回）、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開などを行った。また、埋蔵文化財保護の推進と普及啓発をはかるため、発掘調査成果を活用した地域展や講演会、ワークショップ等を実施するとともに、昨年度に引き続き地域の特性を活かした史跡等総合活用支援事業の支援を受けて「まいぶんセンターまつり」を実施した。これは各種の「古代ものづくり」や火起こしの体験教室と、地域に関連した企画展示、館内見学を組み合わせた催しで、地域住民をはじめとする方々に埋蔵文化財センターの事業を知ってもらう機会とすることを目的としたものである。結果として174人の来館者を得ることができ、アンケートの結果は好評であった。

また、来館者や催事参加者に出土遺物への理解を深めてもらうために、発掘調査で出土した遺物の中から抽出したもののレプリカ立体パズルを、国庫補助金を活用して製作した。また、ワークショップなどで活用する施文体験土器を教職員互助会助成事業制度を利用して製作した。報告書に掲載された遺物や資料の再整理等も行い、収



写真1 年間行事カレンダー

表7 入館者推移表と平成28年度の入館者

年度	合計 (人)	入館者内訳(人)		展示会内訳(人)								展示報告・解説 参加人数(人)
		子供	大人	常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	特別展	速報展	その他	
H13年度	811	487	324	811	—	—	—	—	—	—	—	—
H14年度	821	493	328	177	—	644	—	—	—	—	—	—
H15年度	1,171	703	468	468	—	703	—	—	—	—	—	20
H16年度	1,523	913	610	402	802	319	—	—	—	—	—	—
H17年度	1,318	787	531	431	542	345	—	—	—	—	—	17
H18年度	1,555	582	973	504	449	—	—	—	—	482	120	47
H19年度	2,182	348	1,834	392	809	501	—	—	333	—	147	87
H20年度	2,561	740	1,821	—	1,224	—	451	328	253	—	305	147
H21年度	2,866	905	1,961	—	1,417	—	508	388	363	—	190	170
H22年度	2,816	1,019	1,797	—	1,558	—	347	331	383	—	197	104
H23年度	3,058	1,035	2,023	—	1,521	—	490	466	369	—	212	147
H24年度	2,854	1,074	1,780	—	1,247	—	557	595	338	—	117	110
H25年度	3,205	1,342	1,863	—	1,431	—	625	415	621	—	113	208
H26年度	3,120	1,428	1,692	—	1,320	—	686	560	396	—	158	117
H27年度	4,040	1,591	2,449	—	1,640	—	725	870	422	—	175	87
H28年度	4,651	1,583	3,068	—	2,121	—	790	—	1,394	—	249	138
合計(人)	38,552	15,030	23,522	3,185	16,081	2,512	5,179	3,953	4,872	482	1,983	1,399

2. 指定管理事業

蔵遺物をより有効に活用できる条件の整備を図った。

入館者の内訳については、展示および施設の見学者や体験学習者、講座・報告会等の参加者が中心であるが、出土文化財等の調査・研究のための来館者や、児童生徒の日常的な来館もみられた。入館者総数は4,651人で、前年度を大きく上回った。今年度、目標を大きく上回った要因としては、このような地道な広報活動をはじめとする日常的・積極的な普及推進の努力を基礎として、新たに土曜・日曜・祝日の臨時開館期間を数回設けたこと、及び他機関が主催となる観光誘致イベントとの連携を積極的に行ったことなどが主な要因と考えられる。

今後、入館者数を恒常的に安定または増加させていくには、多様なニーズに対応し得る、より分かりやすい「見てみたい展示」を心掛けるとともに、学校関係をはじめとする各種団体へのより積極的な働きかけが重要と考える。

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの展示室を会場として、発掘調査成果の公開活用のため、年間3本の展示会を行った。入館者数は総計4,651人で、対前年度比15%増である。増加比率自体については、総じて取組んできた普及・広報の努力成果が表れたものとみられる。

団体見学については計15件で、昨年度より2件増加した。これまでの件数及び人数の詳細は表14のとおりで、入館者数に占める団体見学者数の比率は比較的大きい。今後入館者数を確保していく上では、団体見学の誘致が一定の鍵になるといえる。

以下、各展示会毎に報告する。

① 企画展

「考古資料からみた高知県の歴史」と題し、旧石器時代から江戸時代までの遺物を展示することで、高知県の歴史を概観できる展示とした。会期は4月25日(月)から7月9日(土)まで、入館者は790人で昨年度より65人増え、対前年度比では約9%増加した。企画展の会期中には当センターの担当職員による展示報告会を1回と展示品解説を2回(午前と午後の各1回)の計3回実施しており、入館者に対し展示だけではなくきめ細かい展示サービスを行った。

② 四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展

四国四県の埋蔵文化財センターの共同の巡回展である。今年度は「戦国時代の四国」をテーマに、四国各地の城館の発掘調査の成果を元に、室町時代の守護の城館や地域の拠点の屋敷から戦国時代の群雄割拠の城、そして権威の象徴



写真2 企画展ポスター



写真3 巡回展ポスター

としての近世の城郭への変遷の具体像を展示した。会期は7月18日(月)から9月30日(金)、入館者2,121人で昨年度より481人増え、対前年度比では約29%増加した。今回の展示テーマは戦国時代を取り上げ中世の城館を中心とした展示であったため人気が高く、各県の展示会場の来館者も昨年に比べると増加した。また、高知会場での展示期間は通年よりも約2週間長く期間をとり、巡回展示に併せて高知県の城館跡の調査成果を取り上げた地域展示も試み非常に好評であった。発掘へんろ展の会期中には当センターの担当職員による展示報告会を2回と展示品解説を2回(午前と午後の各1回)の計4回実施しており、入館者に対し展示だけではなくきめ細かい展示サービスを行った。また、8月21日には高知県立歴史民俗資料館多目的ホールで記念シンポジウムを開催した。滋賀県立大学教授中井均氏を講師に「中世城館の保存と整備・活用」と題した基調講演をしていただき、その後四国各県のパネリストを交えてディスカッションを行った。参加者は90人であった。

③ 特別展

今年度は10月24日(月)から平成29年4月7日(金)までの会期で、「田村遺跡群とその時代2 - 弥生時代中期～終末 -」と題して田村遺跡群にスポットをあてた特別展を開催した。入館者は1,394人で、昨年度の企画展2と特別展をあわせた入館者数(1,328人)に比べて66人増え、対前年度比では約5%増加した。特別展の会期中には当センターの担当職員による展示報告会を1回と展示品解説を2回(午前と午後の各1回)の計3回実施しており、入館者に対し展示だけではなくきめ細かい展示サービスを行った。また、通常の展示解説への対応として展示室入口前に展示解説の案内板を設け、入館者の要望に応じた展示解説を随時行った。

④ 移動展

H26年度から試行している移動展を今年度は、2月13日(月)から2月26日(日)までの期間、いの町立伊野公民館を会場にいの町教育委員会と共催で、「いの町の遺跡展」と題して開催した。期間中は、いの町の遺跡から出土した代表的な遺物を展示し、いの町の遺跡の様子等を紹介するパネルを掲示した。会期中の来館者は249名に上った。また、2月19日(日)には、ワークショップ(勾玉づくり体験)や愛媛大学准教授の柴田昌兎氏による講演会「丘陵上や山間部にある弥生集落の特質」を行った。当日は、ワークショップに51名、講演会に109名の参加を得た。

来年度は、高知市との連携を予定している。高知市内の弥生時代から中世の遺跡について通史的な展示を行い、地域



写真4 特別展ポスター



写真5 移動展ポスター

2. 指定管理事業

色を描く展示を目指す。

(2) 公開講座等

講座として遺跡解説会4回、考古学からわかる歴史教室4回、授業にいかせる考古学教室1回、古代もののづくり体験教室18回、親子考古学教室40回及び各展示会に伴う展示報告会4回と展示解説会6回(午前・午後)、そして特別展記念シンポジウム・移動展ワークショップ・移動展講演会各1回の合計80回を開催し、2,299人(館外講演会含む)の参加者があった。昨年度(1,849人)より450人多く(対前年度比約24%増)、2年連続で順調に参加者が増加している結果となっている。

なお、1,286人の参加のあった親子考古学教室では大人が535人(昨年度比57人減)、子ども(大半は小学生)が751人(昨年度比52人減)で、大人1人に対して子供平均1.4人の参加と昨年度とほぼ同じ割合であり、少子化の影響が激しいが、付き添う大人がいっしょに製作を楽しむ姿や家族や三世代で参加する姿も目立ち、参加者層の広がりは強く感じられた。この親子考古学教室はチラシを出前考古学教室で訪れる学校などに配付し始めてから開催日によっては定員以上の募集がある最も人気の講座であるため、ここ数年は開催回数を40回(30人/回)としてきたが、ボランティアスタッフの確保が難しくなってきたこともあり、担当者への負担の軽減や新たに立ち上げる公開講座とのバランスを考慮し、来年度は開催回数を32回(35人/回)とする。

各講座の平均参加者数では、遺跡解説会が約25人(募集定員40人)、考古学からわかる歴史教室が約20人(募集定員40人)、親子考古学教室が約32人(募集定員30人)、古代もののづくり体験教室が約8人(募集定員10人)、展示報告会約24人(募集定員40人)、展示品解説約7人(募集定員各約20人)であった。親子

表8 公開講座参加者数

年度	合計	内訳					
		考古学からわかる歴史教室	遺跡解説会	授業にいかせる考古学教室	親子考古学教室	古代もののづくり体験教室	遺跡見学会
平成13年度	—	—	—	—	—	—	—
平成14年度	48人	—	—	—	48人	—	—
平成15年度	109人	—	—	—	109人	—	—
平成16年度	175人	—	—	—	175人	—	—
平成17年度	120人	—	—	—	120人	—	—
平成18年度	431人	136人	—	—	270人	—	25人
平成19年度	444人	110人	138人	9人	146人	35人	6人
平成20年度	1,122人	83人	173人	10人	686人	148人	22人
平成21年度	1,187人	99人	106人	6人	870人	89人	17人
平成22年度	1,499人	80人	137人	7人	1,177人	67人	31人
平成23年度	1,453人	87人	99人	3人	1,129人	124人	11人
平成24年度	1,276人	69人	78人	15人	938人	157人	19人
平成25年度	1,436人	66人	101人	5人	1,132人	132人	—
平成26年度	1,453人	52人	69人	6人	1,203人	123人	—
平成27年度	1,648人	46人	111人	2人	1,395人	94人	—
平成28年度	1,607人	80人	99人	3人	1,286人	139人	—
合計	14,008人	908人	1,111人	66人	10,684人	1,108人	131人

※平成25年度から発掘調査報告会は遺跡解説会、先生のための考古学講座は授業にいかせる考古学教室に名称変更。

考古学教室については、知名度が年々上がり参加者も増加してきているが、その他の講座はまだまだ募集定員を下回っている状態である。

このように、体験型の講座では、本年度もやはり女性を中心でかつ比較的若い方の参加や家族連れでの参加も目立つようになってきた。このことから、体験型の講座は女性の入館者数や支持層を増やすのに有効な事業と考えられる。一方で座学を中心とする講座は、50～60代の男性の参加者を中心であり、考古学に興味を持ちより深く歴史を学びたい方が多いとはいえ、講座内容も考古学の専門的な内容を維持しつつ、歴史や現代社会の事象と絡めながら一層興味を持って頂ける内容にしていくことが重要と思われる。調査員も自分の研究成果を発表し広めていける場と捉え、積極的に参加する必要がある。

概して参加希望が多かった講座はいずれも体験型の講座であり、考古学の専門的要素の強い座学を中心とする講座は総体的に参加者の伸び悩みがみられるが、参加者増のためだけに体験型に傾倒することなく、また一方、座学の進め方にも工夫を凝らして、全体バランスを見ながら参加者増を目指す必要がある。少子高齢化と景気減退の中にある高知県の現状を鑑みるに、直ちに参加者増を導き出す対策は見出せないが、地道な広報の拡大や種々のイベントの機会を捉えて県民に存在を見せて(スタッフジャンパーや着ぐるみのプレゼンス)、知っていただく(県・市町村広報紙、テレビ・ラジオ放送など)活動が大切であるので、今後も継続して取り組むこととする。なお、具体的な対策としてダイレクトメールによる参加呼びかけを通年でおこなったものの、目に見えた結果は得られていない。

また、事業案内を年間行事カレンダーやホームページ等で行う一方、報道機関への告知放送の依頼を行うなど周知強化を図った。

これ以外に、本年度も高知県文化財団主催の「ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ」に参加し、2月4日(土)に出土遺物展示・センター業務紹介(パネル・ビデオ上映)・土器パズル・遺跡クイズラリー・古代ものづくり教室(銅鏡づくり)・古代人衣装体験イベントを開催した。当日は家族連れや子どもたちを中心に130人に及ぶ来場者を得、企画内容も大変好評であった。当イベントについては、来年度の継続実施がすでに決まっている。

表9 平成28年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者
企画展(4月25日～7月9日)		790人	古代ものづくり体験教室		考古学からわかる歴史教室	
「企画展」報告会	5月7日(土)	15人	1	5月21日(土) 9人	1	5月14日(土) 23人
展示品解説	6月4日(土)	14人	2	6月25日(土) 20人	2	7月9日(土) 7人
発掘へんろ展(7月18日～9月30日)		2,121人	3	10月29日(土) 26人	3	11月26日(土) 22人
「発掘へんろ展」報告会	7月18日(月)	28人	4	11月21日(月) 2人	4	1月7日(土) 28人
〃	9月10日(土)	25人	5	12月3日(土) 17人	遺跡解説会	
展示品解説	8月11日(木)	14人	6	1月16日(月) 20人	1	6月11日(土) 36人
記念シンポジウム	8月21日(日)	90人	7	2月18日(土) 20人	2	9月3日(土) 22人
特別展(10月24日～4月7日)		1,394人	8	3月4日(土) 11人	3	12月17日(土) 25人
「特別展」報告会	11月12日(土)	26人	9	3月18日(土) 14人	4	1月28日(土) 16人
展示品解説	12月10日(土)	16人	授業にいかせる考古学教室		まいぶんセンターまつり	
移動展(2月13日～2月26日)		249人		8月2日(火) 3人		11月6日(日) 174人
ワークショップ	2月19日(日)	51人				
講演会	2月19日(日)	109人				

2. 指定管理事業

① 考古学からわかる歴史教室

従来の「考古学講座」に代えて平成25年度から開催し始めたもので、今年度は年4回、13時30分から15時30分までの2時間にわたる教室として埋蔵文化財センターにおいて実施した。今年度は、より具体的かつ身近なテーマを立て、より多くの

方が参加しやすいような初心者向けの講座を行った。結果、参加総数は80人で対前年度比は約74%増であった。

② 遺跡解説会

埋蔵文化財センターが近年実施した発掘調査のうち、注目された4遺跡の発掘調査を取り上げ、視聴覚機器を活用して平易かつ視覚的に解説するとともに出土遺物も実見してもらい、遺跡についての理解を一層深めてもらうことを目的としている。年間4回、1回90分間の講座で、当センターで実施した。参加総数は99人で、昨年度より12人減少しているが、参加者数はほぼ横ばいである。来年度も同様の講座を計画している。

表10 平成28年度考古学講座(考古学からわかる歴史教室)

開催日	講座内容	担当者
第1回(5月14日(土))	不思議がいっぱい高知の遺跡	茂松清志
第2回(7月9日(土))	勾玉のお話	藤野明弘
第3回(11月26日(土))	お墓の移り変わり	坂本裕一
第4回(1月7日(土))	高知のお城いろいろ	江間盛男

表11 平成28年度遺跡解説会(発掘調査報告会)

開催日	講座内容	担当者
第1回(6月11日(土))	高知城下の遺跡	徳平涼子
第2回(9月3日(土))	岡遺跡と安芸市の遺跡	久家隆芳
第3回(12月17日(土))	27年度調査分高田遺跡	池澤俊幸
第4回(1月28日(土))	いの町の遺跡	吉成承三

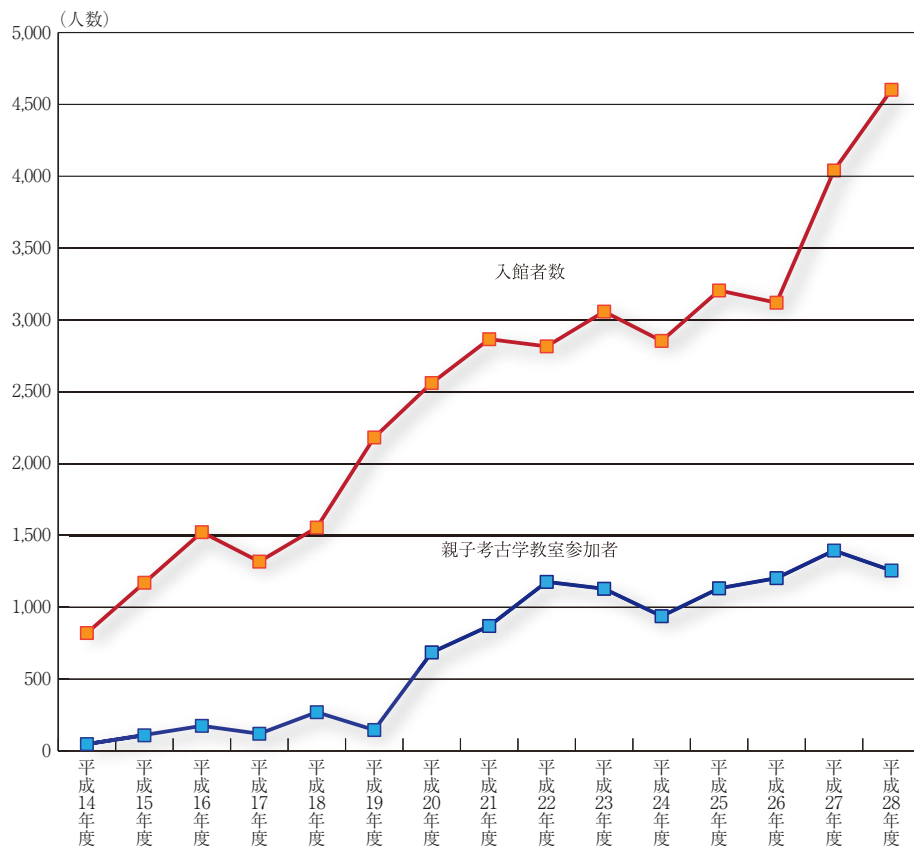


図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合

③ 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある講座で、「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子による体験型講座である。県内の小学生全員に親子考古学教室のチラシを夏休み前に配付し、周知を図った。今年度も昨年度同様に埋蔵文化財センター以外にも宿毛市・四万十市・四万十町・須崎市・安芸市・室戸市・本山町でも開催し、午前と午後2回ずつ合計40回の実施を計画し、計画どおり合計40回実施した。参加人数は総計1,286名(内訳大人535名,子ども751名)で、一昨年度の1,203名よりは多く、昨年度の1,395名よりは減少したが、全体としては増加傾向にある。

④ 授業にいかせる考古学教室

学校現場の先生に考古学に関心を持っていただき、埋蔵文化財センターとの連携を深めるために企画した講座で、平成25年度からは、教員10年次研修の選択対象となっている。内容は、午前が考古学概説や展示遺物解説、午後は古代ものづくり体験・整理作業体験・収蔵庫での遺物検索体験から選択した活動とし、事前に研修センターとの日程調整をして、夏休み期間中の8月2日(火)に実施し、3名の教員の参加があった。

⑤ 古代ものづくり体験教室

平成24年度から「勾玉づくり」「ガラス玉づくり」「銅鏡づくり」「土器づくり」の4つのメニューで実施していたが、平成27年度からは、「琥珀勾玉づくり」及び「編布づくり」を加えた6つのメニューで、全18回開催し、参加人数は昨年度より43人多い139人であった。新たなメニューで開催することで、新たな参加者の掘り起こしを図ったところ、琥珀勾玉づくりには新たな参加希望者が多かったが、他の教室ではリピーターが多い傾向が見られるので、より魅力的なメニュー開発や幅広い層に届く



写真6 親子考古学教室ポスター

表12 平成28年度公開講座2(親子考古学教室)

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
※ 7月23日(土)	13人	22人	14人	24人	73人	8月12日(金)	14人	20人	19人	25人	78人
※ 7月24日(日)	16人	23人	7人	5人	51人	8月14日(日)	18人	18人	16人	20人	72人
7月26日(火)	12人	24人	13人	20人	69人	8月16日(火)	13人	20人	14人	20人	67人
7月28日(木)	17人	24人	19人	23人	83人	8月19日(金)	13人	23人	14人	26人	76人
※ 7月30日(土)	8人	10人	2人	4人	24人	※ 8月20日(土)	4人	7人	3人	5人	19人
7月31日(日)	20人	24人	15人	20人	79人	8月23日(火)	15人	20人	12人	16人	63人
8月1日(月)	14人	22人	15人	21人	72人	8月25日(木)	16人	19人	13人	21人	69人
※ 8月3日(水)	9人	17人	3人	6人	35人	8月27日(土)	14人	23人	14人	18人	69人
※ 8月6日(土)	17人	20人	13人	15人	65人	8月28日(日)	18人	19人	21人	22人	80人
※ 8月7日(日)	14人	24人	10人	18人	66人	合計	281人	400人	254人	351人	1,286人
8月10日(水)	16人	21人	17人	22人	76人						

※は館外で実施

2. 指定管理事業

広報展開が必要である。

⑥まいぶんセンターまつり

平成27年度から新たな取り組みとして始めた、「まいぶんセンターまつり」を11月6日(日)に開催した。事業内容としては、古代ものづくり体験教室で実施している勾玉づくり、編布づくり、銅鏡づくり、土器づくり及び火起こしの体験教室を一堂に開催して体験してもらいながら、出土遺物の整理作業の実際と収蔵遺物を見学してもらうバックヤードツアー及び出土遺物のミニ展示を行い、地域の方々に埋蔵文化財センターを知ってもらう機会とした。昨年度は雨天でありながら301人の来館があったことから、受入許容範囲を考慮して広報範囲を制限してみたところ174人の来館があった。当日は、土佐日記つらゆき時代まつりや他のイベントと重複したこともあり、出足に関する評価は難しいが、近接したクリニックから大きな駐車場の利用許諾を得られ、次年度以降も利用可能の見込みであることを加味して、次年度以降の広報の仕方を検討する必要がある。

i 展示解説

特別展「田村遺跡群とその時代2」－弥生時代中期～終末－の展示だけではなく「長宗我部氏の城」をテーマにして地域の遺物をミニ展示して展示解説を行った。参加者は身近にある遺跡(遺物、遺構)を見たり古代の土器に触れ、地域の歴史を考える契機になったのではないかとと思われる。

ii バックヤードツアー

収蔵庫の土器や整理作業室で作業している行程を見学することでセンターの業務内容について理解していただいた。特に、土器の接合や補填作業を間近に見学することにより、文化財としての重要性を理解していただいた。

iii ものづくり体験教室

勾玉づくり、銅鏡づくり、編布づくり、土器づくり、火起こしを行った。各ブースは定員を設定し実施したがどのブースも盛況であり、複数のものづくりに参加される方も多数みられた。各ものづくりについては最初にレクチャーを行った。勾玉づくりは、いつものように人気があり当初の予定より定員を増やし実施した。銅鏡づくりは田村遺跡で出土した内行花紋鏡を復元したシリコンゴム



写真7 まいぶんセンターまつり(編布づくり)



写真8 まいぶんセンターまつり(銅鏡づくり)



写真9 まいぶんセンターまつり(着ぐるみ)

の鋳型に電熱器で低融点合金を溶かして流しこみ冷ましてからサンドペーパーで磨く工程で作成したが、丁寧に磨くと実際の鏡のように輝くため、好評であった。編布づくりは今年度からの試みであったが多くの参加者があった。土器づくりは多くの大人も参加して丁寧な土器ができた。一ヵ月間乾燥させて職員が土器焼きを行い、焼き上がった土器をセンターに受け取りに来ていただいた。火起こしは、タイムトライアルを行い、参加者は全力を出していた。火起こしは簡単ではなく古代の人々の苦労も体験できたのではないだろうか。

iv 土器パズルコーナー

土器パズルをするコーナーでは親子でパズルに挑戦してもらい、広く土器を知ってもらう機会になった。また、このコーナーではクイズラリーをはじめ、当センターのマスコットである「文蔵くん」「まいちゃん」と写真を撮ったり、古代人の衣装を身にまとい写真を撮ったりする事もでき、縄文人・弥生人の人形とともに家族で写真撮影する場面もみられた。

(3) 情報公開等

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開のため、インターネットホームページの管理更新を行った。埋蔵文化財の基礎情報としてこれまでの発掘調査報告及び展示パンフレット、広報用資料などをPDFにより電子データとして公開している。展示会パンフレット等の新たな発行物を随時追加更新することにより、インターネットを介して最新情報を閲覧・ダウンロードすることができ、埋蔵文化財資料及び情報の公開・活用に資している。このような当センターの手法は、全国的にみても利便性の高いものといえる。また、従来からマスコミへの告知情報のリリースや取材には積極的に対応しており、新聞報道やテレビ放送による企画展示情報やイベントの紹介ができていたので、埋蔵文化財センターへの関心や知名度はここ数年で着実に向上してきているものと考えられる。しかしながら、まだまだ十分周知できているとはいえない状況にあることから、今年度は、新たな広報媒体として、市町村広報誌、さんSUN高知及び県広報枠でのラジオ告知へ企画展示やイベント情報をリリースし、広報した。



写真10 ホームページ

今後は以上のことを踏まえ、人気のある講座をできる限り拡充し、かつ来館しにくい地域にはこちらから出向いて講座・教室の場を提供するなど工夫して地域教育や歴史教育に欠くことのできない施設である埋蔵文化財センターをより一層アピールしていくこととする。なお、前年度の業務内容を記録した『年報25号』を刊行している。

① ホームページ

平成19年度にリニューアルしたテンプレートを使用して本年度版に更新すると共に、より見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況は随時更新して、情報公開を行った。また、来年度は各公開講座の申込みをホームページ上からもできるように利便性を図り、テンプレートをリニューアルする予定である。

(公財)高知県埋蔵文化財センター URL: <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

2. 指定管理事業

※ 平成 29 年度から URL : <https://www.kochi-maibun.jp>

② Web 公開データベース

平成 16 年度から始めた Web 公開データベースは、報告書 PDF 等印刷物のみの公開となった。遺跡データベースは、最終的には遺跡情報についてのみ高知県教育委員会に引き継がれ公開されることとなった。一方、報告書 PDF については高知県文化財団のホームページと同じサイトでの公開が承認され、ユーザーに分かりやすいサイト構成に留意している。報告書等のデータを PDF 化して掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報、現地説明会資料を対象としている。

表 13 平成 28 年度物品・遺物(県有物)貸出一覧

番号	貸出先	貸出遺物	貸出期間	目的
1	愛知県陶磁美術館	田村遺跡群出土能茶山焼3点 能茶山焼窯出土能茶山焼17点 計20点	H28.4.1～H29.3.31	常設展「日本のやきもの」で展示
2	高知県立歴史民俗資料館	岡豊城跡出土瀬戸天目茶碗片計3点	H28.4.5～H29.3.31	常設展で展示
3	高知大学人文学部 講師 宮里修	北高田遺跡出土遺物縄文土器計143点	H28.4.21	調査研究
4	高知大学人文学部 講師 宮里修	居徳遺跡群出土遺物 計142点	H28.4.28	調査研究
5	高知大学人文学部 講師 宮里修	栄エ田遺跡出土縄文土器 計59点	H28.5.19	調査研究
6	愛媛県立埋蔵文化財センター 柴田圭子	坂本遺跡出土貿易陶磁器 計297点	H28.8.11	学術調査のための資料調査
7	奈良大学文学部文化財学科 山崎結以	具同中山遺跡群出土須恵器 計1点	H28.8.25	大学卒業論文作成のための 資料調査
8	愛媛県立埋蔵文化財センター 中野良一	飼古屋岩陰遺跡出土縄文土器 計128点	H28.9.15～16	調査研究 「土器に含まれる鉱物観察」
9	南国市立岡豊ふれあい館	栄エ田遺跡・奥谷南遺跡出土遺物 計19点	H28.11.16～21	第7回岡豊ふれあい総合文化祭で 展示
10	高知県立歴史民俗資料館	田村遺跡群出土銅製品 計4点	H28.10.12～H29.1.13	総合展示室における展示と写真撮 影、関連印刷物・広報への使用
11	高知大学人文学部 講師 宮里修	東野土居遺跡、具同中山遺跡群、田村遺跡 群、居徳遺跡群出土遺物 計6点	H28.10.12～11.30	考古学実習の教材として使用
12	立命館大学大学院考古学 文化遺産専修 岡田麻衣子	介良遺跡、西鴨地遺跡、徳王寺前島遺跡 西弘小路遺跡、追手筋遺跡出土木製品 計15点	H28.11.10	大学院修士論文作成のための資料 調査
13	香川県教育委員会 乗松真也	田村遺跡群、西分増井遺跡、居徳遺跡群、 栄エ田遺跡、福井遺跡出土遺物 計11点	H28.11.21	論文作成のための観察、実測、写真 撮影
14	高知大学人文学部 大倉明生	東野土居遺跡出土須恵器 計3点	H28.12.20	大学卒業論文作成のための 実測調査
15	高知大学人文学部 講師 宮里修	田村遺跡群出土土師質土器 計111点	H28.12.20	研究のための資料調査
16	高知大学人文学部 講師 宮里修	天神溝田遺跡出土土器 計20点	H29.1.12	研究のための資料調査
17	高知県立高知城歴史博物館	比江廃寺跡、天神溝田遺跡、高知城伝下屋 敷跡、追手筋遺跡、弘人屋敷跡出土遺物 計46点	H29.2.1～ H30.3.9	3階展示室(導入展示エリア)にお いて展示紹介
18	四万十市教育委員会 教育長 藤倉利一	具同中山遺跡群、古津賀遺跡群、船戸遺跡 出土遺物 計34点	H29.2.14～7.14	「志国高知幕末維新博四万十特別 企画展」で展示

③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に基づき、適切な管理に努めた。また、新規に受け入れた資料については要領に基づいて登録し、情報管理データベースを更新することにより活用の便を図った。

遺物、写真、図書等の資料の貸出しについては、出土文化財18件、物品2件、写真掲載許可等10件の借用依頼等に対し、文化財保護推進のために活用を図ることを基本方針として、迅速に対応した。平成28年度の主な貸出先は愛知県陶磁資料館、高知県立歴史民俗資料館、高知城歴史博物館等である。

④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても積極的に受け入れており、平成28年度は昨年度より2件多い15件の団体見学の受け入れを行った。施設見学は650人であった。

出前考古学教室に出向いた学校数は年々増加傾向にあるなか、学校関連団体の展示施設見学も昨年度同数の11件あった。出前サービスは継続しつつ、今後も発掘現場見学と組み合わせた団体施設

表14 平成28年度施設見学者一覧

No.	団 体 名	見 学 日	生徒等	引率者	総数	内 容	体験学習の内容
1	松野町教育委員会	H28.4.25	2人	0人	2人	展示見学, 館内見学	
2	高知市立初月小学校6年	H28.5.6	130人	5人	135人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学, 体験学習	フィールドワーク
3	南国市立大篠小学校3年1・2組	H28.5.18	67人	3人	70人	展示見学, 館内見学	
4	南国市立大篠小学校3年3・4組	H28.5.25	67人	3人	70人	展示見学, 館内見学	
5	潮幼稚園学童サマースクール	H28.7.27	26人	4人	30人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	勾玉づくり
6	南国市夏休み子ども教室	H28.8.4	9人	2人	11人	遺跡学習, 体験学習	
7	いの町夏休み子ども教室	H28.8.5	20人	3人	23人	遺跡学習, 館内見学, 発掘現場見学, 体験学習	勾玉づくり
8	土佐清水市郷土史同好会	H28.8.20	10人	0人	10人	講話, 展示見学, 館内見学, 体験学習	
9	室戸市羽根放課後子ども教室	H28.8.24	14人	6人	20人	発掘現場見学, 体験学習	勾玉づくり
10	日高村立能津小学校児童・PTA	H28.9.18	30人	5人	35人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	勾玉づくり
11	高知市立初月小学校5年	H28.10.6	118人	4人	122人	遺跡学習, 館内見学, 発掘現場見学, 体験学習	火起こし体験
12	いの町立枝川小学校6年	H28.10.11	55人	3人	58人	遺跡学習, 館内見学, 発掘現場見学, 体験学習	火起こし体験, 勾玉づくり
13	佐川町立斗賀野小学校6年	H28.11.4	22人	2人	24人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	勾玉づくり
14	南国市観光協会	H29.1.31	28人	0人	28人	遺跡学習, 展示見学	
15	安芸市立穴内小学校5・6年	H29.2.3	9人	3人	12人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	火起こし体験, 勾玉づくり
合 計			607人	43人	650人		

2. 指定管理事業

見学の誘致など、センターへの来館見学のインセンティブについて工夫した取り組みを重ねていくことが必要である。

職場体験学習の受け入れ数は昨年度より1校少ない4校(内訳、高知市立介良中学校[2人]香南市立野市中学校[1人]高知市立大津中学校[3人]南国市立鳶ヶ池中学校[1人])であった。当センターでは、考古学に関連する実習や研修を受け入れる体制を取っており、年度によって申込の増減こそみられるものの、毎年生徒や学校機関から高評価を受けている。今後、学校機関との連携をさらに強め、積極的に取り組んでいくことが当センターの業務の理解推進や文化財保護の普及啓発活動にも大きく関わってくるものと考えられる。

(4) 出前考古学教室

出前考古学教室は本年度で19年目を迎える。本年度までの実施回数は976回、実施校は延べ1,024校、授業を受けた児童生徒は小学校を中心に延べ35,058人、見学者等を含めると参加児童生徒数は43,758人を数える。年々実施校が増えてきており、今までの普及活動の成果といえる。

① 概要

本年度は101件の応募があり(小学校87, 中学校5, 高等学校4, 大学校1, 子ども会2, 博物館1, 高齢者施設1)希望する機関ですべて実施できた。授業等を受けた児童生徒は、前期2,516人、後期859人で合計3,375人である。

前期は4月15日の高知市立潮江南小学校を皮切りに8月13日の横倉山自然博物館まで80回、後期は9月5日の四万十市中村南小学校から1月30日の南国市立国府小学校まで21回の実施であった。

表15 平成10～28年度出前考古学教室実績一覧

No.	年 度	実施対象地域	対象学年	実施回数	実施校数	実施期間	授業児童生徒数	参加児童生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前期/試行	450人	450人
2	平成11年度	〃	〃	10回	10校	前期	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	〃	1,352人	3,789人
4	平成13年度	〃	〃	26回	27校	〃	1,060人	2,233人
5	平成14年度	〃	〃	27回	31校	〃	944人	2,541人
6	平成15年度	〃	〃	29回	31校	〃	1,232人	2,121人
7	平成16年度	〃	〃	31回	41校	〃	1,083人	1,083人
8	平成17年度	〃	〃	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
9	平成18年度	〃	〃	51回	60校	〃	1,772人	1,703人
10	平成19年度	〃	小・中学校	51回	69校	〃	2,058人	2,467人
11	平成20年度	〃	〃	52回	64校	〃	1,688人	2,088人
12	平成21年度	〃	小・中・高等学校	48回	53校	〃	1,369人	1,438人
13	平成22年度	〃	〃	65回	66校	〃	2,470人	2,571人
14	平成23年度	〃	〃	61回	64校	〃	2,045人	2,223人
15	平成24年度	〃	〃	79回	71校	〃	2,710人	2,937人
16	平成25年度	〃	〃	87回	79校	〃	3,184人	3,242人
17	平成26年度	〃	〃	97回	94校	〃	3,660人	3,660人
18	平成27年度	〃	〃	92回	85校	〃	3,052人	3,052人
19	平成28年度	〃	〃	101回	97校	〃	3,375人	3,375人
合 計				976回	1,024校	—	35,058人	43,758人

②内容

i 考古学授業「地域の遺跡」

授業は小・中・高等学校等の学年と希望に応じて行った。小学校は6年生を中心にして歴史学習の一環と捉えて授業を希望する学校がほとんどであった。各学校では日本の代表的な遺跡の学習はしているが、地域の遺跡を知らない児童生徒が多いので、遺跡地図を学校別に作成し、身の回りでどのような遺跡があるのかを学習した。そのほか遺物や遺構とは何か、発掘の仕方や整理作業の進め方、当センターの事業内容などについてパワーポイントを使って約30分間説明した。

ii 遺物等展示解説

高知県で発掘された遺物を旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世とそれぞれの時代に分けて展示解説を行った。それぞれの時代の特徴を簡潔に説明し、児童生徒の興味や関心を高める工夫をした。また、直接土器や石器に触れる時間を設け、子どもたちは日常では、あまりできない体験ができた。遺跡や遺物を通して、古代の人々の生活と現代の生活を考えることができた。

iii 体験学習

a. 火起こし

火きり板とマイギリやキリモミを使って火を起こす活動である。マイギリを中心にしてペアで火起こしを行い、発火したペアはキリモミにチャレンジすることになっている。この体験は、自然物を使った道具で火を起こし、現代の恵まれた環境を見直すことにある。火起こしは体力や根気も必要で、簡単にはできない。何度もチャレンジすることで古代の人々の苦労や工夫を肌で感じることができる。また、日本では古来より火を神聖なものとして大切にきており、火は生活の手段だけではないことも説明し、現代の生活を考え直す機会とした。

b. 勾玉づくり

勾玉は市販のセットを使って作成している。材料の滑石は柔らかく工作が容易なので、短時間でオリジナル勾玉を作成することができる。勾玉は、子孫繁栄を祈る装身具や、権力の象徴として作られたと考えられており、様々な形の勾玉がある。副葬品として古墳などから出土することが多く、高知県でも数多くの勾玉が出土している。勾



写真11 考古学授業



写真12 展示解説



写真13 火起こし

2. 指定管理事業

表16 平成28年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)1

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	4/15(金)	高知市	潮江南小学校	6	2	56人
2	4/20(水)	須崎市	安和小学校	5・6	1	4人
3	4/21(木)	南国市	清和中学校	2	〃	8人
4	〃	北川村	北川小学校	6	〃	8人
5	4/22(金)	馬路村	魚梁瀬小学校	〃	〃	3人
6	4/25(月)	香美市	大栃小学校	〃	〃	16人
7	4/26(火)	本山町	本山・吉野小学校	〃	〃	19人
8	〃	大豊町	おおよ小学校	〃	〃	15人
9	4/27(水)	安芸市	安芸第一小学校	〃	2	49人
10	4/28(木)	高知市	一ツ橋小学校	〃	〃	53人
11	〃	佐川町	黒岩小学校	〃	1	9人
12	5/2(月)	須崎市	上分小学校	〃	〃	5人
13	〃	〃	上分中学校	1	〃	9人
14	5/6(金)	〃	吾桑小学校	6	〃	8人
15	〃	いの町	川内小学校	〃	〃	11人
16	5/9(月)	香美市	片地小学校	〃	〃	14人
17	〃	南国市	後免野田小学校	〃	〃	23人
18	5/10(火)	四万十町	東又小学校	5・6	〃	24人
19	〃	いの町	伊野南小学校	6	〃	30人
20	5/12(木)	黒潮町	上川口小学校	5・6	〃	13人
21	〃	〃	三浦小学校	6	〃	9人
22	5/13(金)	土佐清水	足摺岬小学校	5・6	〃	6人
23	〃	四万十市	下田小学校	6	〃	16人
24	5/16(月)	三原村	三原小学校	〃	〃	17人
25	5/17(火)	黒潮町	伊与喜小学校	〃	〃	4人
26	〃	〃	田ノ口小学校	〃	〃	7人
27	5/18(水)	〃	拳ノ川小学校	〃	〃	5人
28	5/19(木)	南国市	大篠小学校	〃	4	134人
29	〃	土佐市	高岡高等学校	1	2	37人
30	5/20(金)	高知市	あかねの里	—	1	15人
31	〃	南国市	大篠小学校	6	4	134人
32	5/23(月)	〃	日章小学校	〃	1	33人
33	5/24(火)	室戸市	羽根小学校	〃	〃	11人
34	〃	〃	元小学校	〃	〃	4人
35	5/25(水)	土佐市	宇佐小学校	〃	〃	19人
36	5/26(木)	高知市	介良潮見台小学校	〃	2	40人
37	〃	〃	第四小学校	〃	〃	71人
38	5/27(金)	〃	昭和小学校	〃	3	90人
39	〃	南国市	長岡小学校	〃	2	39人
40	5/30(月)	高知市	横浜新町小学校	〃	3	75人
41	5/31(火)	〃	五台山小学校	〃	1	21人
42	6/1(水)	津野町	中央小学校	〃	〃	16人
43	6/2(木)	いの町	吾北小学校	〃	〃	13人
44	〃	南国市	大篠小学校	3	4	134人
45	6/3(金)	高知市	潮江東小学校	6	3	81人
46	〃	〃	久重小学校	〃	1	10人
47	6/5(日)	安芸市	安芸中学校	1	〃	34人
48	6/6(月)	佐川町	尾川小学校	6	〃	8人
49	〃	土佐市	蓮池小学校	〃	2	45人
50	6/7(火)	高知市	旭東小学校	〃	〃	63人
51	〃	〃	十津小学校	〃	〃	62人
52	6/9(木)	四万十市	竹島小学校	5・6	〃	10人
53	〃	〃	西土佐小学校	6	1	20人
54	6/10(金)	〃	大用小学校	〃	〃	9人
55	〃	〃	東山小学校	〃	2	45人

表17 平成28年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)2

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
56	6/13(月)	安芸市	伊尾木小学校	6	1	6人
57	〃	芸西村	芸西小学校	〃	〃	28人
58	6/14(火)	高知市	旭小学校	〃	2	70人
59	6/15(水)	〃	はりまや橋小学校	〃	〃	68人
60	6/16(木)	黒潮町	入野小学校	〃	1	19人
61	〃	宿毛市	咸陽小学校	〃	〃	32人
62	6/17(金)	大月町	大月小学校	〃	〃	26人
63	〃	四万十市	東中筋小学校	〃	〃	12人
64	6/20(月)	高知市	土佐山学舎	〃	〃	6人
65	6/21(火)	越知町	越知小学校	〃	2	37人
66	6/22(水)	南国市	稲生小学校	〃	1	9人
67	6/23(木)	四万十町	影野小学校	〃	〃	17人
68	6/24(金)	日高村	能津小学校	〃	〃	6人
69	〃	仁淀川町	池川小学校	〃	〃	22人
70	6/27(月)	香美市	大宮小学校	〃	〃	30人
71	6/28(火)	須崎市	浦ノ内小学校	〃	〃	8人
72	6/30(木)	高知市	鴨田小学校	〃	4	152人
73	7/1(金)	〃	北高等学校	1～4	1	20人
74	7/4(月)	〃	三里小学校	6	2	37人
75	7/5(火)	土佐清水	清水小学校	〃	〃	48人
76	〃	宿毛市	大島小学校	5・6	〃	35人
77	7/6(水)	〃	松田川小学校	〃	〃	12人
78	7/25(月)	土佐市	高岡高等学校	1	〃	37人
79	8/8(月)	室戸市	佐喜浜子ども会			20人
80	8/13(土)	越知町	横倉山自然博物館	6		45人
合計						2,516人

表18 平成28年度出前考古学教室後期実績一覧(授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	9/5(月)	四万十市	中村南小学校	6	2	41人
2	9/10(土)	須崎市	多ノ郷小学校	5	〃	50人
3	9/27(火)	南国市	後免野田小学校	1～4	1	24人
4	10/7(金)	香南市	佐古小学校	3	2	40人
5	10/14(金)	香美市	山田小学校	4	〃	66人
6	10/18(火)	高知市	長浜小学校	6	3	87人
7	10/21(金)	〃	一宮東小学校	〃	2	60人
8	10/25(火)	四万十市	竹島小学校	〃	1	10人
9	10/28(金)	〃	具同小学校	〃	2	63人
10	11/3(木)	土佐市	戸波中学校	小学生/1～3	〃	72人
11	11/7(月)	香美市	香長小学校	4	1	12人
12	11/13(日)	南国市	久礼田小学校	1～3	3	24人
13	11/14(月)	いの町	吾北中学校	〃	〃	44人
14	11/25(金)	高知市	潮江小学校	6	2	65人
15	11/28(月)	〃	一ツ橋小学校	4	〃	59人
16	12/2(金)	四万十市	竹島小学校	5・6	〃	10人
17	12/3(土)	香美市	山田小学校	4	〃	69人
18	12/16(金)	土佐市	高岡二小学校	6	1	14人
19	1/13(金)	いの町	追手前高等学校吾北分校	3	〃	14人
20	1/17(火)	高知市	高知大学	1～4	〃	20人
21	1/30(月)	南国市	国府小学校	6	〃	15人
合計						859人

2. 指定管理事業

玉の由来を学習した後に作り方を説明し、約60分間で勾玉づくりを行った。石に絵を描き、ノコギリで切り、サンドペーパーで磨く作業である。自分独自のもの(世界で一つだけのもの)が作れる喜びがあり、毎年変わらず人気である。

c. 土器づくり

今年度は希望する学校が少なく残念であった。土器づくりの体験は貴重であり、縄文時代からの土器づくりに思いをはせることもできる。また土器をよく見る目を養う良い機会でもある。一ヶ月間の乾燥期間が必要で燃料の薪も調達が大変なので簡単ではないが、多くの学校に体験をしていただきたい活動である。来年度以降も続けていきたい。



写真14 勾玉づくり

③ 本年度の成果と今後の取り組みについて

「出前」への申込みが多様化していることから、対応の便宜上昨年度より次のように分類している。

出前A・・・学校の授業での開催

出前B・・・学校の授業以外での開催(学年行事や親子行事など)

出前C・・・学校以外での開催(地域行事や団体など)

i 実施回数や実施校について

前期の実施期間は4ヶ月と短い、小学校の授業と平行しての考古学教室を希望している学校が多く、希望が前期に集中している。後期は希望校が少ないので工夫した広報活動が必要である。年間を通じて実施回数が増加していることは喜ばしい限りであるが、県東部地域の応募が少ないことから、これらの地域への普及活動に一層力を入れていくことが大切と考える。また、中学校や高等学校への広報普及を積極的に取り組んでいきたい。

ii 内容について

授業では、視聴覚機器を使い遺構や遺物の写真に興味をもてるような工夫をしている。児童生徒の感想では、「授業が楽しい」、「わかりやすい」、「遺跡に興味をもった」という感想が多い。展示は、高知県で発掘された遺物を展示している。現代人の生活と昔の人々の生活について、類似点と相違点を比較して興味関心を高めた。何より古代の人々の作った土器に触れることができる体験は貴重である。火起こしは、ペアでの活動であり、協力することの大切さを知ることができる。また、火がついた体験も忘れることができないものである。勾玉づくりは、自分の努力が実を結び、古代の人々の思いを共有することができるのではないと思う。さらに時間に余裕があれば、より充実する活動である。

iii 学校側の受入れ態勢について

前年度の3月下旬までに実施日を決定し、4月から電話とファックスで内容の打ち合わせを行った。体験学習のみを希望する学校には、なるべく遺跡の学習や展示解説を組み込んでもらい学習効果が高められるよう努めた。当日の学校の対応については、要請していた機器類や道具等が概ね揃っており、円滑に運営することができた。担当教員の方にはよく協力をしていただき、スムーズに実施できた。

iv 用具について

火起こし器は、マイギリ式とキリモミ式を使用している。マイギリ式は破損が多く、毎回点検や修理をしているが、高価なため安価でより良い道具を調達していくことが課題である。マイギリの先端は、センターで栽培しているウツギを加工して火起こしに利用している。檜より容易に火種ができるので重宝している。一方、キリモミ式には竹を利用しているが、火種ができるまでに困難を要する。火種を落とすものとしては脱脂綿を利用している。火きり板は業者から購入しているものを使用している。現在檜丸棒の径 14 ミリの販売がなく、今後どのような道具を加工、制作していくのか検討中である。替芯も同様で在庫もあまりないので早急な手だてが必要である。

v スタッフについて

2名の担当職員を中心に運営したが、児童生徒の多い学校では他の職員の協力を得て対応した。お互いに連携をとりながら、授業や展示解説等に精力的に臨んだ。今年度はボランティアの方々の協力機会がなかったので、来年度より積極的に協力をお願いをしていきたい。

④むすび

出前考古学教室は今年で 19 年目を迎え、高知県の西から東へと 101 校の学校に出向き開催することができた。特に今年度は高知大学に出前ができ(主に火起こしについて)過去にない活動ができた。参加数も年々増え、より多くの児童生徒と触れ合うことができ、この事業に対する期待も大きくなっている。また、児童生徒や教職員だけでなく、学年行事や PTA 活動などを通じて保護者にも考古学教室の普及啓発ができ、埋蔵文化財への関心をもってもらえれば大変喜ばしいことである。高知は弥生時代から多くの集落があり、各地に遺跡が残っている。高知に遺跡があることを知らない人も多く、このような話を聞くと地域の歴史にロマン感じるのではないだろうか。高知の遺跡を知っている人は、まだまだ少ないように思う。少しでも多くの人々に遺跡を知っていただき、近隣の地域の遺跡や歴史に興味をもつことができれば、地域の良さを見直すことができる。私たちの生活には連綿たる古代人の知恵が生きている。その知恵を現代に生かす努力をするとともに、埋蔵文化財を通じて出前考古学教室を意義あるものにしていきたい。また来年度は出前考古学教室が開催され 20 年を迎える年である。多くの先人の活動に学びながらより充実させたい。

(5) 研修事業

職員の資質向上及び最新の情報を得るため職員専門研修(表19)を行うとともに、本年度は、文化庁主催の「埋蔵文化財保護行政基礎講座」(表20)に1名が参加した。また財団自主企画研修として2名(表21)が研修を行った。

① 職員専門研修

今年度の職員専門研修(表19)は、福島県文化振興財団の吉田秀享氏を講師に招き、11月に研修を行った。「東日本大震災から学ぶ文化財の取り組み」と題し、震災後の発掘調査の状況や今後の埋蔵文化財調査についての講義と、古代製鉄遺跡についての講義を 17・18 日の二日間にわたり行った。県内市町村の文化財担当者にも参加を呼びかけ、香南市、津野町から担当者2名の参加があった。

② 埋蔵文化財担当者研修

本年度は、文化庁主催の「埋蔵文化財保護行政基礎講座」(表 20)に 1 名が参加し、埋蔵文化財保護行政の推進と、文化財を活かした個性豊かで魅力的な地域づくりの創造を行うために必要な知識の

2. 指定管理事業

向上を図った。また、全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(表20)に2名が参加し、管理者部会と調査部会に分かれ、それぞれ、職場における危機管理、山形県埋蔵文化財センターでのデジタル機器の導入と活用、及び問題点などについての研修を受けた。

(6) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講師や活動指導者等の依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、本年度は11件(表23)の派遣を行った。



写真15 職員専門研修

(7) 遺物の再整理事業等

埋蔵文化財の有効活用を目的に、報告書に掲載された遺物の再整理等を行い、遺物の有効活用を図るため出土遺物の再整理を行った。今年度の照合遺物点数は5,004点、修復点数は405点であった。

(8) その他

① 共催事業

いの町教育委員会との共催で行った移動展の他、文化庁、高知県立歴史民俗資料館、高知新聞社、全国新聞社事業協議会主催の特別展「発掘された日本列島 2016 新発見考古速報」の共催も行った。また親子考古学教室は、共催や後援を各教育委員会から得て実施した。

表19 平成28年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師名	所属・役職
1	「東日本大震災から学ぶ埋蔵文化財の取り組み」 福島県相双地域の古代製鉄技術 －操業実験から垣間見えたもの－	平成28年11月17・18日	吉田 秀享	公益財団法人福島県文化振興財団 遺跡調査部調査課長

表20 平成28年度埋蔵文化財担当者研修

No.	研修名	研修場所	研修期間	研修者
1	平成28年度埋蔵文化財保護行政基礎講座	文化庁	平成28年8月3～5日	下村 裕
2	平成28年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	山形県山形市	平成28年9月29・30日	松田 直則 久家 隆芳

表21 平成28年度職員自主企画研修

No.	研修名	研修先	研修期間	研修者
1	展示・パンフレット英訳のための語学研修	高知市	平成28年7月1日～12月31日	下村 裕
2	普及事業(体験学習)の視察	長野県・群馬県・福島県	平成28年12月5～9日	久家 隆芳

表22 平成28年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	平成28年度第1回「続・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成28年4月20・21日	池澤俊幸・久家隆芳
2	平成28年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会(千葉市)	平成28年5月12・13日	松田直則
3	第37回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(鹿児島市)	平成28年6月16・17日	松田直則・吉成承三
4	平成28年度第2回「続・発掘へんろ」高知会場展示・実行委員会	平成28年7月14・15日	池澤俊幸・久家隆芳
5	平成28年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(高知市)	平成28年9月15・16日	松田直則・東勝彦・吉成承三・池澤俊幸・茂松清志
6	平成28年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(山形市)	平成28年9月29・30日	松田直則・久家隆芳
7	平成28年度第3回「続・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成28年10月7日	久家隆芳
8	平成28年度第2回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会(東京都)	平成28年12月1・2日	松田直則・東勝彦 吉成承三
9	平成28年度第4回「続・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成29年1月6日	久家隆芳
10	平成28年度第5回「続・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成29年3月23日	久家隆芳

表23 平成28年度講師派遣・調査指導等依頼一覧

日・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
4月19日	吉成 承三 久家 隆芳	南国市領石地区	南国市領石開山堂中世石造物実測調査	南国市領石開山堂
5月10日	吉成 承三	津野町教育委員会	津野町郷土資料館の埋蔵文化財展示に係わる現地指導	津野町郷土資料館
8月17日	坂本 裕一	南国市立後免野田小学校	「勾玉づくり講話」講師	南国市立 後免野田小学校
9月28日	吉成 承三	高知市観光協会	「高知城の概要」講師	高知市総合 あんしんセンター
11月7日	茂松 清志	南国市立香長小学校	「歴史講座・地域めぐり」講師	南国市立香長小学校
11月14日	〃	いの町立吾北中学校	「高知城のはなし」講師	高知城
11月20日	久家 隆芳	南国市立岡豊ふれあい館 岡豊地区地域活性化協議会	岡豊ふれあい総合文化祭講演会 「岡豊地区の古墳時代について」講師	南国市立岡豊 ふれあい館
11月28日	茂松 清志	高知市立一橋小学校	社会科見学「香美市山田堰跡」講師	香美市山田堰跡 吾岡山緑地
12月3日	〃	香美市立山田小学校	歴史講話・勾玉づくり講師	香美市立山田小学校
1月17日	藤野 明弘 茂松 清志	高知大学教育学部	「火起こし体験の指導並びに古代人の生活の工夫について」講師	高知大学 朝倉キャンパス
1月31日	松田 直則	南国市観光協会	「南国市観光案内人の会 後免町エリアガイド養成講座」講師	南国市田村城館跡

2. 指定管理事業

② 各種イベントへの参加・協力

今年度は、財団本部が主催したイオンモールでのワークショップ参加以外にも当センター主催以外のイベントとして、県ならびに公益財団法人高知県産業振興センター主催の「第5回ものづくり総合技術展」に参加した。また、「こうち漫画フェスティバルまんさい2016」に本センターのキャラクター「まいちゃん」の着ぐるみと職員が参加し、「ゆるキャラステージ」で県内の代表的な「ゆるキャラ」と並んで本センターのPRをおこなうとともに、「ゆるキャラストリート」でイベント観覧者と交流し人気を博した。ワークショップ形式の「ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ」では、銅鏡づくり、3D土器パズル、展示、クイズラリー、古代衣装体験、着ぐるみとの触れ合い、DVD鑑賞など多くの活動を行い好評で130人の参加があった。また、「第5回ものづくり総合技術展」では勾玉づくりを行い、定員40人をはるかに超える参加希望が集まった。これらの館外のイベントについては、歴年のアンケートなどでは、初めて参加した人がほとんどであったが、今年度の活動では親子考古学教室や出前考古学教室、公開講座や公開展示のリピーターが目立つようになり、このような活動が当センターを知ってもらいきっかけとなっているとともに、当センターの活動に対する関心や親しみを深める働きをしていることが確認された。



写真16 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ1



写真17 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ2

IV 各遺跡の発掘調査概要

1. 伏原遺跡(16-1KF)

所在地 香美市土佐山田町楠目

立地 台地上

時代 弥生時代・古墳時代

調査期間 平成28年4月18日～6月27日

調査面積 767㎡

担当者 坂本憲昭・徳平涼子

調査内容 伏原遺跡の所在する香美市土佐山田町楠目は長岡台

地の北部に位置し、周辺には弥生時代末の遺跡として、ひびのき

サウジ遺跡やひびのき遺跡、古墳時代の遺跡として伏原大塚古

墳などがみられる。伏原遺跡は平成18・19年度に都市計画道路高知山田線建設に伴い発掘調査が行われており、調査では縄文時代から近世にかけての遺構が確認されている。弥生時代では終末期の円形や方形、多角形を呈する竪穴建物跡や土器棺墓などが確認されており、多角形を呈する竪穴建物跡からはガラス玉も出土している。古墳時代では後期のカマド付きの竪穴建物跡が確認されているほか、古代では掘立柱建物跡や溝跡等が確認されている。近接する伏原大塚古墳はこの地域の首長の墓と考えられており、弥生時代末から古墳時代にかけて伏原遺跡はこの地域の中心集落であったと考えられている。今回の調査地は伏原遺跡の西端に位置し、遺跡の縁辺部とみられる。

調査では弥生時代終末期～古墳時代初頭にかけての方形の竪穴建物跡3軒と多角形の竪穴建物跡1軒を確認した。この時期の竪穴建物跡は北側の調査区であるⅠ区のみで確認され、遺物も竪穴建物跡から多く出土しており、多角形を呈するST-4からは赤色顔料の付着した台石も出土している。この時期の竪穴建物跡は約150m東の平成18・19年度の調査地点でも多数確認されており、今回の調査地は伏原遺跡の西端部と考えられていたが、この時期の集落が更に西へ広がっていることが判明した。また、南側の調査区であるⅡ区ではこの時期の壺棺墓1基も確認された。壺棺墓は伏原遺跡の東の縁辺部で多数確認されており、墓域と考えられている。今回の壺棺墓は竪穴建物跡が多数確認されている居住域の西側で初めて確認されたものであり、調査地の西側にも墓域が広がっている可能性がある。



図9 伏原遺跡位置図



写真18 遺構完掘状態

1. 伏原遺跡



写真19 ST-6須恵器(壺・杯)出土状態

古墳時代後期の竪穴建物跡はⅡ区で3軒が確認された。この時期の竪穴建物跡はすべて方形を呈し、内1棟ではカマド跡も確認した。カマド跡を検出したST-6ではカマド跡に隣接する地点で、須恵器の杯2点、蓋1点、壺2点が纏まって出土している。ST-6は小型で、柱穴を持たない事など他の竪穴建物跡とは異っており、祭祀関連施設の可能性もある。

2. 高田遺跡(16-2KT)

所在地 香南市野市町下井

立地 河岸段丘上

時代 弥生時代～古代(奈良～平安)

調査期間 平成28年4月27日～平成29年2月28日

調査面積 5,700㎡

担当者 坂本裕一・筒井三菜・江間盛男

調査内容 高田遺跡は物部川東岸の河口近くに立地し、北側上流に下ノ坪遺跡や西野遺跡群、深淵遺跡など弥生時代から古代にかけての遺跡が所在する。



図10 高田遺跡位置図

発掘調査は、国土交通省が計画している高知東部自動車道(南国安芸道路)の工事区域内において、平成26・27年度に高知県教育委員会が遺跡の範囲や内容についての資料を得るため試掘確認調査を実施し、古代を中心とする遺構と遺物が確認されたため、工事によって影響を受ける部分について実施した。平成27年度はⅠ～Ⅲ区の調査を行い、弥生時代後期と奈良時代から平安時代末期に属するとみられる竪穴建物跡8軒・土器棺墓2基・掘立柱建物跡10棟以上・土坑22基・溝跡3条・性格不明遺構13基・その他多数のピットを検出した。遺物は弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・瓦質土器・陶磁器・土製品・石製品・鉄製品などが出土し、中でも特徴的な遺物として円面硯や緑釉・灰釉陶器などが見られ、特に緑釉陶器には猿投製のものが注目された。

本年度の発掘調査は昨年度の東側にあたるⅣ～Ⅶ区で実施した。調査の結果、竪穴建物跡1軒、土器棺墓4基、掘立柱建物跡16棟、土坑54基、溝跡64条、性格不明遺構15基、その他多数のピットを検出し、遺物は弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・瓦質土器・陶磁器・土製品・石製品・鉄製品などが出土した。

弥生時代の主な遺構には竪穴建物跡と土器棺墓がある。竪穴建物跡はⅤ区で約2/3を検出し、東側は調査区外である。検出部分の長軸は6.27m、短軸4.0mを測り、北側に拡張された楕円形プランを呈する。床面には貼床が施され拡張部分はベッド状に一段高くなる。昨年度のⅡ区で検出された竪穴建物群とは約60m離れており、東側の未調査部分にはさらに数件の竪穴建物跡の存在が推測される。

土器棺墓はⅣ区の西北部で4基検出した。いずれも上部を削平されているが、頸部を打ち欠いた壺を埋納容器とし、



写真20 Ⅵ区遺構完掘状態

2. 高田遺跡

壺の下胴部または高杯の杯部で蓋をしている。大きさから小児用と考えられる。この4基は竪穴住居跡から少し離れた場所に埋納されており、竪穴建物跡に近接した場所にある昨年度確認された土器棺墓2基とは埋納場所に差異が見られる。

遺構・遺物の時期は弥生時代後期後半が中心である。甕や鉢が多く

見られ、壺は少ない。高田遺跡の北側に所在する下ノ坪遺跡、深淵遺跡、西野遺跡ルノ丸地区などの調査成果と合わせて、この地域での弥生時代後期から古墳時代初頭の集落の変遷を辿ることができる資料となった。

古代(奈良～平安)の主な遺構には掘立柱建物跡、土坑墓などがある。掘立柱建物跡群はⅣ区からⅤ区に股がるブロックとⅥ区南東部の2つのブロックを捉えることができる。両建物群で規模が大きいものはいずれも東西棟である。特にⅥ区では4棟が近接または切り合っている。

その他の遺構としてⅥ区では土坑墓が1基検出された。主軸が東西方向で長軸約1.3m、短軸0.9mの長方形プランを呈する。埋土中に上部に積まれていたと思われる集石があり、副葬品として底の北東角に小型の瓶に小型の杯が2枚重ねて伏せた状態で立てかけられており、刀子も1点出土した。また、平面形や掘方が不定形の性格不明遺構からは、人頭大の円礫や焼土とともに須恵器や赤色塗彩の土師器がまとまって出土し、当該時期の良好な一括資料となった。

出土している当該期の遺物のうち、円面硯や墨書土器は識字階層の存在を示し、帯金具や刀子なども出土していることから当遺跡が官衙など地域の管理的な施設であることを示すものである。

高田遺跡の周辺には、古代の大型建物跡群や唐式の銅鏡の他、各種の官衙的遺物が出土した下ノ坪遺跡、東海産緑釉陶器が出土した西野遺跡ルノ丸地区があり、ともに流通・交通の基幹となっていた物部川の河口に近いという地理的条件にある。古代の物部川河口部は広い潟になっていたと考えられており、対岸の田村遺跡群の成果も併せて港湾の機能が想定され、当該地域の歴史を明らかにする成果となっている。



写真21 Ⅴ区竪穴建物跡完掘状態

3. 若宮ノ東遺跡(16-3NW)

所在地 南国市篠原

立地 台地端部

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成28年8月15日～平成29年2月17日

調査面積 2,180㎡

担当者 坂本憲昭・徳平涼子

調査内容 今回の発掘調査は、高知県が計画している都市計画道路高知南国線建設工事区域内に若宮ノ東遺跡が所在していることから、工事の影響を受ける部分を事前に発掘調査を行うこととなり、高知県より委託を受け約2,600㎡を対象に平成28年8月15日から平成29年2月17日まで発掘調査を実施した。都市計画道路高知南国線建設工事区域内の遺跡の調査は今年度が初年度にあたり、今後も継続して調査が計画されている。

若宮ノ東遺跡は南国市篠原に所在し、長岡台地から平野部に続く変換地点に位置する。南国市は県内でも多くの遺跡が確認されており、若宮ノ東遺跡の周辺にも弥生時代から古代の遺跡を中心に多くの遺跡が所在し、発掘調査も行われている。遺跡の北側の長岡台地では、弥生時代末から古墳時代初頭の大規模集落遺跡で方形周溝墓や多くの金属器が出土した東崎遺跡、同時期の東阿波型土器等の搬入土器が多く出土した小籠遺跡、弥生時代末の竪穴建物跡や古墳時代のカマド付き竪穴建物跡、古代の道路遺構が検出された祈年遺跡などがある。また、平安時代の寺院跡である野中廃寺は直



図11 若宮ノ東遺跡位置図



写真22 遺構完掘状態

3. 若宮ノ東遺跡

線距離で約 450 m 北東に所在している。

調査では弥生時代後期から近世にかけての遺構や遺物を検出しており、なかでも弥生時代末から古墳時代初頭と古代の時期が中心となると考えられる。検出した遺構では大型の柱穴が 8 基直列した柱穴列が特筆される。柱穴列の柱間距離は約 3.0m で延長は 18m に及び、柱穴



写真 23 総柱建物跡完掘状態

の掘方は方形で一辺は約 1.2m を測り、深さは約 1.0m が残存している。埋土断面には直径約 30cm の柱痕を確認することができた。礎石は確認できなかったが柱穴は基底礫層を掘り抜いた状態であった。埋土中からの遺物出土は細片のみで極めて少なく、遺物からの時期判断は困難な状況であった。このため、当初、柱穴列の時期は周辺の遺構から弥生時代末または古墳時代末のいずれかの時期の可能性が高いと考えられた。しかし、その後の調査で大型柱穴列の柱穴と同じ掘方を持つ総柱建物跡を検出し、建物軸方向はいずれも条里地割りに従った軸方向を示していることから、古代の可能性が最も高いと考えられる。柱穴列は、対応する柱穴列が確認できず、建物跡を構成する可能性は低いと考えられる。現時点では延長部分の調査がおこなわれていないため、その性格を確定できず、今後の調査が期待される。その他では、弥生時代末から古墳時代初頭の集落跡に関連する竪穴建物跡 25 棟、掘立柱建物跡 2 棟、井戸跡などの遺構を確認した。竪穴建物跡の平面形態は多角形と方形のみであった。また、弥生時代の井戸跡と考えられる遺構は稀少で、住居跡と重なった状態で検出されたことも貴重な資料となると考えられる。古代と考えられる総柱建物跡は、一辺約 1.0～1.2m の大型の柱穴を持ち、3×4 間(6×9m)の規模で官衙関連遺構と考えられる。中世の明瞭な遺構は不明であったが、近世から近現代の遺構では大型土坑や井戸跡などを確認した。

出土した遺物は弥生時代から近世のもので、その大半は弥生時代の遺物で竪穴建物跡や土坑から出土した。古代、中世の遺物は少なく、遺構に伴う遺物も少量であった。また、近世の遺物も少量であったが、近世墓や廃棄土坑から出土している。

V 条例・規則等

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

第2条 センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

第3条 センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

第5条 センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

第6条 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

第7条 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

第8条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

第9条 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

第10条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

第11条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

第12条 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第13条 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じて、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

第14条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

第16条 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

第17条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

第2条 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

第3条 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令24高文財第698号

公益財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号)第10条第2項の規定により、高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成24年12月27日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成25年4月1日から平成30年3月31日まで

高知県埋蔵文化財センター年報

第26号

2016年度

発行日 平成29年12月26日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

TEL 088-864-0671

印刷 川北印刷株式会社

